

# 日本家庭医療学会会報

第64号

発行日 2008年8月30日

ホームページ : <http://jafm.org/> E-mail : [jafm@a-youme.jp](mailto:jafm@a-youme.jp)

## 第23回 日本家庭医療学会学術集会・総会 報告

### 大会長としての2つの希望

第23回 日本家庭医療学会 学術集会・総会 大会長  
福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部 教授 葛西 龍樹



第23回日本家庭医療学会学術集会・総会は、平成20年5月31日(土)と6月1日(日)の両日、東京大学本郷キャンパスを会場に開催されました。今回の学術集会のテーマは「家庭医療の研究に取り組もう～わたしたちのケアの質向上のために～」でした。大会長としての私の希望は、今年の学術集会を通して、(1) わたしたちのケアと教育の質を向上させるためには家庭医療の研究をすることが重要であることを会員に理解してもらうこと、そして(2) 特に若い会員には、日本の家庭医療の発展を支援する世界の家庭医療のエキスパートたちと交流することによって、世界標準の家庭医療を学ぶことがとても楽しいことだと実感してもらうことでした。

(次ページにつづく)

### 【この号の主な内容】

第23回 日本家庭医療学会学術集会・総会 報告	1	特定非営利活動に係る事業会計収支予算書	32
指名理事決定のお知らせ	16	平成20年度の事業計画書	34
新役員のごあいさつ	16	サテライトワークショップ in 広島 案内	36
若手家庭医部会新役員からひとこと	21	平成20年度 第2回 家庭医療後期研修プログラム 指導医養成のためのワークショップ 案内	38
日本家庭医療学会理事会議事録	22	第16回 家庭医の生涯教育のためのワークショップ案内	39
日本家庭医療学会新役員会議事録	24	第4回若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー 案内	40
平成19年度特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表	26	リレー連載 診療所研修/「ニポポ」	41
平成19年度特定非営利活動に係る事業会計財産目録	27	「生涯学習(CME)に役立つツール」特集	43
特定非営利活動に係る事業会計収支決算書	28	事務局からのお知らせ	44
平成19年度の事業報告書	30		

## 第23回 日本家庭医療学会 学術集会・総会

### プログラム

会 期 2008年5月31日(土)～6月1日(日)

会 場 東京大学

大会長 葛西 龍樹  
(福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部教授)

テーマ 家庭医療の研究に取り組もう  
～わたしたちのケアの質向上のために～

参加者数 491名

### 1日目 5月31日(土)

#### 【学会賞候補演題 (口演)】

座長：伴 信太郎、大西 弘高

#### 【リサーチ・シンポジウム】

「家庭医療の研究に取り組もう  
～わたしたちのケアの質向上のために～」

座長：葛西 龍樹

シンポジスト：Prof Chris van Weel  
Prof Chris Del Mar  
Prof Domhnall MacAuley  
Prof Cindy Lam

#### 【公募ワークショップ】

W-11 家族志向のケア中級編 家族システムの理解  
と難しい家族との面談を中心に  
コーディネーター：松下 明、佐古 篤謙、  
吉本 尚、田原 正夫

W-12 タイムマネジメントを磨く  
コーディネーター：朝倉 健太郎、中川 史、  
八藤 英典、岡田 唯男

W-13 質的研究をやってみよう～データ分析を中心に～  
コーディネーター：錦織 宏、大谷 尚

W-14 「活きた」身体所見を取る方法  
コーディネーター：川島 篤志、北村 大

家庭医療の研究では、ケアの現場 (point of care) の診療上の疑問を出発点として、その疑問を解決するために研究をして、その成果をケアの現場に還元してケアの質向上へつなげる、という流れがスタンダードです。これは家庭医療の教育の現場での疑問についても同様です。日本では家庭医療の発展が遅れていることもあり、そもそもこのようなことが医学研究になり、*BMJ* や *Lancet* などの一流の雑誌に掲載できるということがほとんど理解されていませんでした。ぜひこれから日本の家庭医療とその教育の現場から多くの研究が実施され、わたしたちのケアと教育が向上し、その成果が世界へ発表されることを期待します。*BMJ* も *Lancet* も、日本からの家庭医療の研究論文を待ち望んでいます。

世界の家庭医療との交流には、今回その会長である Chris van Weel 教授にも来ていただきましたが、WONCA (World Organization of Family Doctors) との関係づくりが重要です。WONCA は世界の家庭医療学会が会員として集まる国際連合です。日本では日本プライマリ・ケア学会が会員であるため、日本家庭医療学会の特に若手会員の方たちにはなかなか馴染みがありません。ただ日本プライマリ・ケア学会内でも、WONCA の動きが学会員に十分伝えられているとは言えず、とても残念に思っています。今後、プライマリ・ケア関連3学会が合同するプロセスのなかで、日本で家庭医療を目指す人たちがもっと自由に国際交流を通して楽しく世界標準の家庭医療を学ぶことができるチャンスを学会として作っていききたいものです。

多くの方々の支援と参加で開催できた今年の学術集会・総会でした。みなさまに感謝申し上げます。今回生み出されたみなさまの家庭医療への熱意と興味をさらに豊かにして、雨森正記先生が大会長をされる来年の学術集会・総会へ向けて、それぞれの現場で楽しく家庭医療を追求していきましょう。

## 大会長講演

## 「日本の家庭医療の課題」

演者：葛西 龍樹  
(福島県立医科大学医学部地域・家庭医療部)

司会：山田 隆  
(社団法人 地域医療振興協会)

講演は葛西龍樹大会長の家庭医としての個人史、幅広い諸外国家庭医との交友の歴史から始まった。演者を肉付けてきたまさしくグローバルスタンダードに沿った家庭医療の概念が語られ、その重要性、価値観を改めて学ぶことができた。

そういった中で何故、いま、わが国で国民の立場に立った真の家庭医療が普及しないのか？それは多くの医療提供者の家庭医療に対する誤解や、医療の受け手の理解の乏しさが根底にある。演者はそういった状況を打開する日本のリーダーの一人として、今後の目指すべき指針と自身の進める戦略を熱く語り、多くの聴衆に感動を与えた。(発表資料はHP上で閲覧できる予定です。)



\*\*\*\*\*  
W-21 地域の設定でいかにして家庭医療の原理  
ACCCCを教えるか？

コーディネーター：吉村 学、西川 武彦

W-22 在宅ケア・地域ケア

コーディネーター：長 純一

W-23 ReflectionをPromoteする

コーディネーター：錦織 宏、菅野 哲也、  
平山 陽子、藤沼 康樹

W-24 学会発表が「楽しく!!」なる。プレゼンの3つのコツ

コーディネーター：佐藤 健一、斎藤 裕之

## 【一般演題（口演）】

座長：山本 和利、三瀬 順一

座長：亀谷 学、岡田 唯男

## 【リサーチ・ワークショップ】

## 【ポスターセッション】

一般演題（ポスター）

学会認定家庭医療後期研修プログラム紹介（ポスター）

## 【学会賞表彰】

## 【総会】

## 【PG 認定授与式】

## 2日目 6月1日(日)

## 【公募ワークショップ】

W-31 思春期と性教育～避妊・STD 予防を中心に  
コーディネーター：稲田 美紀、横谷 省治

W-32 How to join /  
teach プラクティカル EBM カンファレンス  
コーディネーター：古谷 伸之、柳内 秀勝、  
江村 正、伊藤 公美恵、  
多田 紀夫

W-33 健康寿命をのばそう!  
～家庭医にできる介護予防の介入と実践～  
コーディネーター：中村 明澄、堤 円香、  
阪本 直人、前野 哲博

\*\*\*\*\*

W-34 後期研修医と語る後期研修  
 コーディネーター：喜瀬 守人、麦谷 歩、  
 森 敬良、田頭 弘子

W-41 生涯学習ツールとして  
 Significant Event Analysis を導入しよう  
 コーディネーター：宮田 靖志、寺田 豊、  
 森崎 龍郎、夏目 寿彦、  
 八木田 一雄

W-42 Whatcha gonna do on emergency ?  
 こんな救急の時、どうする？  
 ～知って得する救急のトリビア!?～  
 コーディネーター：林 寛之、森 祐樹、  
 川城 麻理、堀田 敏弘

W-43 構造主義医療の挑戦：科学的実体としての  
 疾患と自然言語で語られる疾患のギャップ  
 コーディネーター：名郷 直樹、福士 元春、  
 八森 淳、船越 樹、  
 桐ヶ谷 大淳

【一般演題（口演）】  
 座長：白浜 雅司、草場 鉄周  
 座長：藤沼 康樹  
 座長：生坂 政臣、小林 裕幸

【リサーチ・ワークショップ】

【田坂賞】

【大会長講演】  
 「日本の家庭医療の課題」  
 演者：葛西 龍樹  
 司会：山田 隆司

【公開シンポジウム】  
 「リサーチと世界の家庭医療」  
 座長：葛西 龍樹  
 シンポジスト：Prof Chris van Weel  
 Prof Chris Del Mar  
 Prof Domhnall MacAuley  
 Prof Cindy Lam

\*\*\*\*\*



## リサーチ・シンポジウム

葛西 龍樹

第23回 日本家庭医療学会 学術集会・総会 大会長  
 (福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部 教授)

「家庭医療の研究に取り組もう～わたしたちのケアの質向上のために～」をテーマとしたこのシンポジウムは、Chris van Weel 教授 (WONCA 会長、オランダ)、Chris Del Mar 教授 (Bond 大学医学部長、オーストラリア)、Domhnall MacAuley 教授 (British Medical Journal プライマリ・ケア部門編集長、英国)、Cindy Lam 教授 (香港大学家庭医療科主任、中国香港) という家庭医療とその研究についてのエキスパートを招聘して行われた。残念ながら急用で今回来日することができなかった Walter Rosser 教授 (WONCA 研究ワーキンググループ代表、カナダ) と Goh Lee Gan 教授 (WONCA アジア太平洋地域前会長、シンガポール) も、パワーポイントを送ってくれて、このリサーチ・シンポジウムとそれに続くリサーチ・ワークショップ、公開シンポジウムを支えていただいた。

「RESEARCH NETWORK ASIA PACIFIC 2008: From idea to reality」と題する Lee Gan 教授と私の共同発表では、Research Network for Asia Pacific (ReNAP) の歴史と現状を紹介し、これからの発展のために、各国に研究の拠点を作ってネットワークを構築し、我々の研究能力を開発し、アジア太平洋地域や全世界規模の共同研究を進めることを提唱した。「THE GP-RESEARCHER: CAPACITY BUILDING TO IMPROVE HEALTH GLOBALLY」と題した van Weel 教授の発表は、オランダ Nijmegen 大学の家庭医療科が実施する大学院博士課程と研修医を兼ねる教育プログラムの紹介で、研修医の行う研究の質の高さが注目された。「Family Medicine Research in Asia」と題する Lam 教授の発表は、研究についてのアジア地域の特徴を SWOT 分析することにより、我々の能力

開発とネットワーク構築が強調された。来年6月に香港で開催される WONCA アジア太平洋地域学会が楽しみである。「Creating research and putting it to use for better patient care」と題する Del Mar 教授の発表では、家庭医療研究の現状分析と、日常の問題から出発する研究の具体例が紹介された。家庭医の研究活動を支援する The Brisbane International Initiative や PHCRED (Primary Health Care Research Evaluation and Development) の取り組みも紹介された。「Publications in primary care and their impact」と題する MacAuley 教授の発表は、BMJ の編集長として「よりよい意思決定を支援する」研究を重視する立場から、各種研究の勘どころが紹介された。「リング1個を交換してもリング1個を持つだけだが、アイデアを交換するとアイデア2個持つことになる」という George Bernard Shaw の言葉を引用して、研究で最も大事なことはアイデアであることが強調された。


**公開シンポジウム**
**「リサーチと世界の家庭医療」**

竹村 洋典  
 (三重大学医学部附属病院総合診療部・  
 大学院医学系研究科家庭医療学 准教授)

この公開シンポジウムでは、家庭医療のフィールドにおいて研究で名をはせた著名な家庭医がパネリストとして参加した。特に WONCA をアカデミック GP/F P 主体に変革させた現 WONCA 会長 Chris van Weel 氏の発表は、彼の研究の歩みが紹介されていて非常に興味深かった。また、今回、学会に参加はできなかったが葛西氏が代読された前アジア太平洋州 WONCA 会長の Goh Lee Gan 氏による発表は、アジア太平洋州 WONCA による家庭医療研究への取り組みの歴史がよく理解できた。Cindy Lam 女史による研究は、患者中心性という家庭医療の根幹にかかわる特性についての実証研究で、彼女の

研究に対する情熱が感じられた。Chris Del Mar 氏は日ごろの診療の中にある研究テーマを話され、参加された多くの聴衆に研究の可能性を印象付けたのではなかろうか。そして Domhnall MacAuley 氏の発表から、世界の一流雑誌である British Medical Journal が家庭医療のフィールドでの研究を期待していることを感じる事ができた。最後にフロアーの聴衆を含めた議論があったが、家庭医療における研究への真のインセンティブも垣間見ることができ、貴重な情報を得ることができた。

今回のシンポジウムによって、世界の家庭医療がその存在感を具現化するために、アカデミックな方向に流れていることが実感でき、また会員がその代表的な研究者と接する機会ができたことは、日本の家庭医療の将来にも良い影響があったと考えている。



## 第1回 田坂賞授賞式 兼 受賞記念講演 報告

白浜 雅司  
(佐賀市立国民健康保険三瀬診療所)

昨年2月急逝された田坂佳千先生を偲んで作られた田坂賞の第1回授賞者は安田英己先生に決定し、先生と同名の安田講堂で6月1日午後、授賞式と記念講演がありました。多くの皆様の参加に感謝します。

記念講演では、選考理由の、1、医学生・研修医に家庭医療を好きになってもらう教育。2、賞味期限は切れてないか？を自問自答しながら生涯学習を続けられている姿。3、グループ診療や、地域の多職種との連携、地域医師とのネットワーク作りについてお話されました。医師としての仕事に疲れを感じ、このままでは「しょぼい」団塊の世代になるのではないかという危惧から、自分をリセットして、生涯学習を続けるため、医学生・研修医の教育にリンクして、若者に自分自身の経験を伝えながら、自分自身も学んでいくという生涯教育のスタイルを確立されました。「協調し相手を尊重する心」と「それぞれの独自性発揮」のバランスと、「楽しいことを実践する」という2つの姿勢が鍵だったようです。最後のスライドで、静かに毎日の診療をこなしながら、夜と土日に若者とTFCの仲間楽しく勉強することが最上の喜びと強調され、若い世代が田坂賞目指してがんばってほしいと



いうエールで締めくくられました。授賞式の前後で、若い先生や学生さんが、先生の周りでお祝いを述べられていた姿が印象的でした。

第2回田坂賞の選考も年末に始まりです。会員の皆様からの推薦よろしくお願ひします。



## 学会賞候補演題

座長：伴 信太郎  
(名古屋大学医学部附属病院総合診療部)  
大西 弘高  
(東京大学医学教育国際協力研究センター)

今回の学会賞は、表1の4演題が対象でした。2題(1, 4)が卒前教育、2題(2, 3)が臨床現場を対象を得た研究で、いずれの演題も大変興味深いものでした。審査の結果、平成20年度の学会賞は麦谷歩氏が受賞されました。以下簡単に講評をまとめました。

### 【講評】

麦谷氏の研究は、先行研究のレビューから始まり、研究の限界の考察まで研究としてのstructureが最もしっかりしている研究で、家庭医療性も申し分のない研究でした。一方で、研究のリミテーションとして述べられていた部分在实际大変大きなリミテーションであり、方法論もアンケートの内容分析に留まらず、フォーカスグループなどのもう少し深い掘り下げがなされないとピアレビュー誌の論文としては難しいであろうとのコメントも出されました。

八木田先生の演題は、膨大なポートフォリオデータを対象にした、力の入った研究でした。1) 病院と診療所という実習場所の違いの比較、2) 質的にもう少し深く掘り下げた分析等があれば、

表 1 学会賞の候補演題

1. 八木田一雄「地域医療実習でのポートフォリオ作成がもたらす家族・地域に関する本月の研究」
2. 吉本尚「家庭医療後期研修プログラム卒業生は、経営的にも健全に診療所を運営できるか」
3. 江口幸士郎「地域密着型小病院における特定保健指導の実際と家庭医のかかわり」
4. 麦谷歩「医学生は家庭医療コース参加の結果、どのように変わるのか？」

ピアレビュー誌の論文としても素晴らしいものとなると思われます。ただし、近年では医学教育研究でも倫理委員会の承認を求められますので、その点にも配慮していただきたいとのコメントも出されました。

吉本先生、江口先生のご研究はいずれも臨床現場からの研究で、今後家庭医療学領域の研究としては、むしろこれら研究が本流となるものです。ただ残念ながら、吉本先生の研究は、演題と研究内容がずれていて、むしろ「家庭医療後期研修医を引き受ける診療所が健全な経営をしていくための条件」のような研究目的として全国規模の研究へ展開してもらおうと、大変興味深いものになると思われました。

江口先生の研究も特定保健指導の枠組みを作られた大変意欲的な取り組みでした。このような指導の枠組みを構築するプロセスに焦点をあてれば、もっと研究として質が高いものになったのではないかと思います。またこの枠組みを使ったアウトカムも研究としては興味深いものとなるでしょう。

最後に、当学会の生涯教育ワークショップ（本年は平成20年11月8日—9日）では「学会賞をとるための7つのステップ」と題した（今年の題目は未定）研究方法についてのワークショップも開催していますので、ぜひ積極的に参加していただきたいと思います。（文責：伴 信太郎）

**一般演題（口演）****L-01 ~ L-05**

座長

山本 和利

(札幌医科大学地域医療総合医学講座)

三瀬 順一

(自治医科大学地域医療学センター地域医療支援部門)

L-01 自施設における日常健康問題とは、大原紗矢香ら。

ICPCを用いて、予防接種や妊娠関係の問題が多く、筋骨格系の問題が少ないという自施設の特徴を報告し、家庭医として学ぶべきことを論じる際の貴重な資料を提供している。ICPCの特徴である、主訴・来診理由と診断行為、診断、介入行為の関係をも解析すればなおよかった。

L-02 市立なら病院救急外来における意識障害の鑑別、茨木利彦ら。

演者によるカルテレビュー100例によってAIUEOTIPSに着目した解析がユニーク。稀が見逃せない疾患が含まれなかったのが限界。多施設共同研究による分析が期待される。

L-03 女性家庭医による乳癌検診、高松英子。

家庭医としてウィメンズヘルスに取り組んだ報告で今後の家庭医活動の展開の可能性を示している。精度管理や技量の向上にも言及しており、興味ある提言であった。

L-04 離島診療所で若手家庭医が小児髄膜炎を診るということ、徳田隼人ら。

家庭医としてCommon Diseaseだけでなく、髄膜炎という小児の重大疾患を、島で診た経験の報告。入院やへり搬送の基準やHibワクチンの普及問題など多くの聴衆の好奇心を刺激した。

L-05 地域における“もの忘れ外来”の実態、夏目寿彦ら。

認知症を疑えば大病院の専門外来へという風潮のなか、地域の診療所で、実際に家族面談や病歴を駆使した認知症の診断を進めている、家庭医らしい貴重な実践報告。

(文責：三瀬 順一)



## 一般演題 (口演)

L-06 ~ L-10

座長

岡田 唯男

(医療法人 鉄蕉会 亀田ファミリークリニック館山)

亀谷 学 (川崎市立多摩病院)

5つの多岐にわたる、しかしいずれも本学会ならではの演題が発表された。デルファイ法を用いた質的研究(寺田 豊ら)では、住民を積極的に巻き込んで地域が抱える健康課題を抽出し(高齢者、小児期)、家庭医療の実践に示唆を与える内容であった。慢性疾患の外来中断患者に、医師看護師事務職チームが電子カルテ 管理下に患者と連絡を取り、家庭医療の継続診療を実現する手法が紹介され評価された(田頭弘子)。中小病院で「家庭医外来」を立ち上げる経緯が紹介され、他施設での同様な取り組みに大変参考となった(菅野哲也ら)。離島診療所での僻地医療は家庭医療の核心を学ぶ絶好の研修環境であることが示され賛同を得た(中村太一ら)。最後に若手家庭医部会冬期セミナー活動が提示され、若手パワーの本学会をリードする頼もしさと爽やかさが会員の関心を惹いた(朝倉健太郎ら)。今後の、研究、調査レベルの発表は倫理委員会の承認を明言する必要性、また研究ではなく「取り組み」であっても、何らかの「成果、評価」を含める必要性を感じた。(敬称略)

(文責：岡田 唯男・亀谷 学)



## 一般演題 (口演)

L-11 ~ L-15

座長

白浜 雅司 (佐賀市立国民健康保険三瀬診療所)

草場 鉄周

(北海道家庭医療学センター 本輪西サテライトクリニック)

当セッションでは前半は嚥下機能や advance directive、後半は在宅医療に関する演題が並ん

だ。前半は、誤嚥性肺炎を予防する上で口腔内残留が鍵となること、そして advance directive を得るために受診回数や年齢が重要となることなど、日常診療のちょっとした疑問から生まれた有意義な研究が目立った。また、後半の在宅医療については、看取りの症例や往診患者の現状、後期研修医を巻き込んだチーム医療の重要性など、それぞれの医療機関の積極的な取り組みと問題解決のプロセスを紹介する演題が続き、現場で悩みつつも前進しようとするエネルギーを感じる内容であった。いずれも方法論は改善の余地があるが興味深いテーマであり、更に発展させ、今後の研究につなげて欲しい。

(文責：草場 鉄周)



## 一般演題 (口演)

L-16 ~ L-20

座長

藤沼 康樹 (日本生協連医療部会家庭医療学  
開発センター・生協浮間診療所)

室谷氏は2つの地域診療所における糖尿病診療の質改善の介入研究を報告した。こうした現場の Quality Improvement のプロジェクトは家庭医療の現場の研究テーマとして今後重要な領域になると思われた。宮島氏は栄養とメンタルヘルスの関連についての自説を展開した。今永氏、木村氏はいずれも在宅医療の現場の事例報告を行ったが、医療者の気づきとそれに基づく洞察と介入が非常に印象的で学ぶところが多い発表であった。菅ヶ谷氏は救急の現場でもみのがされやすい動脈解離についての事例報告を行い、急性の腹痛患者においてはこの疾患を鑑別に上げておくことの重要性を強調された。

(文責：藤沼 康樹)



**一般演題 (口演)****L-21 ~ L-26**

座長

生坂 政臣

(千葉大学医学部附属病院総合診療部)

小林 裕幸

(防衛医科大学校病院 総合臨床部)

小堀勝充氏は、協力小児科医指導医による研修内容を発表し、実践的で充実した内容と思われた。佐藤健一氏は、航空機内医療のワークショップの取り組みを発表し、航空機内といった特殊な環境での問題が提起された。中桶了太氏は、地域の医療施設での修練医教育を発表し、医師不足の地域医療の活性化の一助となり得ると考えられた。阿波谷敏英氏は、学生、看護学生参加の家庭医道場というユニークな医学教育を発表し、学生の家庭医に対する動機付けに有用と思われた。大橋博樹氏は、他の医療従事者による総合診療科に対するアンケート結果を発表し、実際に幅広い診療を行うことでの評価の向上が示された。野村理氏は、診療所研修の研修医教育の有用性を発表し、今後の良き診療所研修のあり方の参考になると思われた。いずれの発表もフロアから活発な質問があり、大変有意義なセッションであった。

(文責：小林 裕幸・生坂 政臣)

**公募 WS****W-11 家族志向のケア中級編****家族システムの理解と難しい家族との面談を中心に**

松下 明、佐古 篤謙、

吉本 尚、田原 正夫

奈義ファミリークリニック

30名を対象に家族志向のケア中級編ワークショップを行った。

参加者の大半が卒後6年目以上の指導医クラ

スで、基礎知識が既にある対象者に対して家族システムの理解を深め、難しい家族との面談技法を身につけてもらう機会を提供した。

30歳代の息子に母親が付き添い、様々な検査を希望するというシナリオに沿って、家族の理解から始まり、家族システムのゆがみ、難しい家族との面談のポイントなどをステップを踏みながら理解していただいた。模擬患者(母親役はプロだが息子役は当診療所の田原医師)の熱演もあり、参加者の集中力が途切れることなくワークショップを終えることができた。

**W-12 タイムマネジメントを磨く**朝倉 健太郎<sup>1</sup>、中川 貴史<sup>2</sup>、八藤 英典<sup>3</sup>、岡田 唯男<sup>4</sup>

1 健生会 大福診療所

2 北海道家庭医療学センター 寿都町立寿都診療所

3 東北海道家庭医療学センター 本輪西ファミリークリニック

4 鉄焦会 亀田ファミリークリニック館山

『一風変わったこのWSのテーマは「タイムマネジメント」』。残念ながら現代の医学の教科書にはまだ載っていませんが、忙しく何でも手を出したくなる家庭医にとってタイムマネジメントは欠かすことの出来ないスキルといえます。この本質はプライオリティの優先順位付けをすることであり、ひいては限られた人生の時間の中で、今何をすべきなのかということを改めて



考えることに他なりません。参加者には今なすべきことを、プライベートも含めてできるだけ多く付箋に書き表し、次に重要度と緊急度にそって自ら分類していただきました。このワークを通じて、自分自身の抱えている「なすべきこと」がうまく整理されたのではないのでしょうか。WSの最後には有用なツールの紹介もありました。』



### W-13 質的研究をやってみよう ～データ分析を中心に～

錦織 宏<sup>1</sup>、大谷 尚<sup>2</sup>

- 1 東京大学医学教育国際協力研究センター
- 2 名古屋大学大学院教育発達科学研究科学  
校情報環境学

患者さんの生物学的な問題だけでなく心理・社会的な問題も広く扱うことが求められる家庭医にとって、リサーチクエストは社会科学の分野の内容が多くなります。本ワークショップでは社会科学の研究手法の一つである質的研究について、その概略を説明した後、データ分析を中心に参加者に経験してもらいました。「研究」が学会のテーマでもあったことや、扱った題材が日常診療でよく出会う内容であったこともあって、多くの参加者に興味を持ってもらえました。ただ時間の制限のために、質的研究の本質にまで迫れなかったことはやや残念でした。今後1～2日単位で質的研究の全体像を見ることができるワークショップを計画しています。

### W-14

#### 「活きた」身体所見を取る方法

川島 篤志、北村 大  
市立堺病院総合内科

立ち見を含めて予定よりも多くの方が来られました。

「身体所見」という演題に多くの方が興味を持っていただけるのは嬉しいと同時に、いかに日本の臨床に成熟した形で根付いていないか、の裏返しであることを改めて実感しました。WSは小テストという形ですが聴衆の方と双方向性のやりとりで進行し、予想通り少し時間がおしてしまいました。が、同日取らせていただいたアンケート結果からも、楽しく有意義な2時間を過ごせていただいたと実感しています。

病歴と連動した「活きた」身体所見は、場所を選ばない一生涯のスキルですので、病歴・身体所見で迫る文化を、今回、受講していただいた皆さまがさらに広めていって下されば…と心から願います。

### W21 地域の設定でいかにして家庭医療の原理 ACCCC を教えるか?

吉村 学<sup>1</sup>、西川 武彦<sup>2</sup>

- 1 地域医療振興協会 揖斐郡北西部地域医療センター
- 2 唐津市民病院 (きたはた)

総勢38名が参加された。最初にアンケート実施、参加者のニーズの把握をした。各自の設定でいかにして家庭医療やその原理を教えるのかについて悩んでいる様子が伺えた。冒頭で自己紹介を行った。その後に西川武彦さん、江口幸士郎さん、平野嘉信さんの3人による朝勉強会の様子をデモしていただいた。その後各グループで感想や意見を出し合い、それを受けて吉村からミニ講演を行いました。これまでの分析や

米国での状況、勉強会のコツ等を概説した。その後活発な質疑応答があり、盛り上がった。教える上での悩みの共有や元気ややる気を頂いたとのコメントが多かった。ワークショップの全体評価は3.6点(5点満点)であった。今後も実施していきたい。

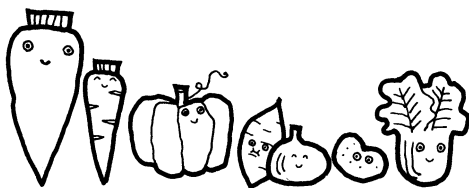


## W-22 在宅ケア・地域ケア

長 純一

長野厚生連佐久総合病院地域診療所科・国保川上村診療所

このWSには、50人程の参加を得た。入院から在宅へ移行するという症例を呈示し、在宅で生活を支えるためにどのような点に配慮が必要かを議論してもらったが、主催者側が意図していた問題はほとんど配慮されており、参加者のレベルの高さを実感した。在宅を経験したことのない方にも配慮した内容を目指したが、やや物足りないと感じられた方もあったかもしれない。特に、介護サービスは地域で大きく異なる場所であり、全国でも最も充実している足立区柳原病院の地域ケアを福島先生に紹介して頂いた。在宅医療の領域では、どんどん在宅医療の専門家(化)の流れが強まっているが、この問題点にも会場にいらっしゃった在宅医学会の会長でもある前沢先生よりコメントいただいたのは幸いであった。



## W-23 ReflectionをPromoteする

錦織 宏<sup>1</sup>、菅野 哲也<sup>2</sup>、  
平山 陽子<sup>2</sup>、藤沼 康樹<sup>3</sup>

1 東京大学医学教育国際協力研究センター

2 王子生協病院

3 日本生協連医療部会家庭医療学開発センター

家庭医は職場の同僚が相対的に少ない環境におかれることもあって、生涯学習の手法を習得する必要性が高いと言えます。本ワークショップでは自身が臨床現場で抱えた問題のみならず、日常抱えている一般的な話題も含めて、Significant Event Analysisの手法を用いて、1対1の形でのReflectionを経験してもらい、生涯学習の一つの手法を学んでもらいました。ファシリテートの方法も含めて説明したこともあって、本ワークショップで多くの参加者が新たな気づきを得たことは、主催者にとっても驚きでした。今後はReflectionを普段からできるようになるためのより普遍的な教育プログラムの開発を計画しています。



## W24 学会発表が「楽しく!!」なる. プレゼンの3つのコツ

佐藤 健一<sup>1</sup>、斎藤 裕之<sup>2</sup>

1 関西リハビリテーション病院

2 東京医科大学総合診療科

昨年に引き続き、学会発表が「楽しく!!」なるプレゼンの3つのコツを開催いたしました。

当日は、事前募集に応じてくれた3名の方に、今までの学会発表スライドを発表してもらい、その「スライド」の見え方に焦点を当て、会場を含めたディスカッションを行いました。

そのプレゼン終了後は、レクチャーを実施しました。自分が理解しているだけのプレゼンから脱却し、聴衆の理解を高め、伝えたいメッセージを確実に伝えられるプレゼンに変えていくに

は当然のことながらちょっとした「コツ」があります。

自分の発表の質を高めたい方は今後のチャンスを見逃さないように!!



### W-31 思春期と性教育 ～避妊・STD 予防を中心に

稲田 美紀、横谷 省治  
三重大学医学部附属病院 総合診療部

思春期の性の現状や避妊・STD 予防のレクチャーに加え、実際の外来風景でのロールプレイ、“どうして若者はセックスをするのか?”、“そこに潜む問題は?” についてのグループディスカッション、小学生用の性教育教材の視聴などを通じ、決してコンドーム教育に留まらない性教育について話し合いました。コーディネーターが高校生カップルに扮して(笑)のコンドームネゴシエーション、子どもに対しての授業展開など、思春期の子どもたちへの教育方法を学びました。「家庭医こそ、思春期の子どもたちが自らの力で学び成長していくサポートを! 困ったときはいつでも助けを求めていいんだよ」という言葉で締めくくりました。“性教育=生教育”、“いのち”というメインテーマが伝わった、感動的なワークショップだったとご評価いただき、大変嬉しく思います。



### W-32 How to Join/Teach プラクティカル EBM カンファレンス

古谷 伸之<sup>1</sup>、柳内 秀勝<sup>1</sup>、江村 正<sup>2</sup>、伊藤 公美恵<sup>1</sup>、多田 紀夫<sup>1</sup>

1 東京慈恵会医科大学附属柏病院内科総合診療部

2 佐賀大学卒後期臨床研修センター

まず、臨床においての EBM の問題点を話し合い、時間がない、役にたつかわからない、判

断基準の曖昧さなどがあげられました。これらを解決するために、まず、UpToDate を研修医や学生と共に行うこと、やったことを記録する EBM ログを作成することを提案しました。指導医は EBM ログを見て解決の過程や次のステップについて一緒に考えれば良いのです。また、難解な PECO をやめて情報検索の中で疑問を明確化したり、文献の吟味をまず結果と対象だけに絞ったりして、学ぶ側も教える側も気負いなく何時でもカンファレンスができるように考えました。後半は、実例をもとに、判断基準を常に患者に置く考え方を再確認し、患者にとって必要な情報が何であるかを共有することができました。

参加者からは、内容や実用性、そして何よりも楽しいワークショップであったことについて評価をいただきました。



### W-33 健康寿命をのばそう! ～家庭医にできる介護予防の介入と実践～

中村 明澄<sup>1,2</sup>、堤 円香<sup>2</sup>、阪本 直人<sup>1</sup>、前野 哲博<sup>1,2</sup>

1 筑波大学附属病院総合診療科

2 筑波大学医学群 PCME 室

家庭医が地域と連携し、“転倒、寝たきり、認知症”などの老年症候群のリスクを早期に発見し、予防するためのエッセンスを盛り込んだ WS が行われた。

早期発見については、東京都老人総合研究所の評価ツール「おたっしゃ21」を用いて実際に評価を体験してもらった。介護予防プログラムについては、たとえば、包括的高齢者運動トレーニングは、単に筋力アップだけではなく、柔軟性・筋力・バランスの3要素を包括的にトレーニングする必要があることなどについて言及し、参加者全員にトレーニングの一部を実際に体験してもらった。参加者の感想では、介入のきっかけを得た、明日から使えるなどの意見、もっ

と具体的な実施方法を知りたかったという意見などをいただいた。

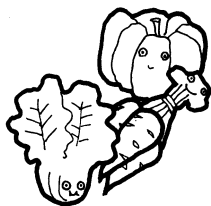


### W-34 後期研修医と語る後期研修

喜瀬 守人<sup>1</sup>、麦谷 歩<sup>1</sup>、  
森 敬良<sup>2</sup>、田頭 弘子<sup>3</sup>

- 1 川崎市立多摩病院 (聖マリアンナ医科大学)
- 2 尼崎医療生活協同組合/兵庫民医連家庭医療学センター
- 3 MSc Healthcare Management, Manchester Business School, The University of Manchester

当 WS では、家庭医療後期研修をさらに充実させるために、これまでに学会内で行われた家庭医療後期研修に関する研究や WS で抽出された問題点のなかから、特に5つの問題点について「私たちに今できることは何か」をテーマにグループ・ディスカッションを行いました。後期研修医を中心に指導医、初期研修医、学生まで幅広い世代の参加者が集い、非常に活発な議論が展開され、既知の問題点の改善を目指した具体的なアクションを提案してもらうことが出来ました。ここでは、その魅力的な提案の全てを紹介することはできませんが、当 WS のまとめを、近日中に若手家庭医部会 HP に掲載予定です。また、「語る→動く」を合い言葉に、当 WS でのプロダクトを実際のプロジェクトに発展させるべく、各方面と協力していきたいと考えています。



### W-41 生涯学習ツールとして Significant Event Analysis を導入しよう

宮田 靖志<sup>1</sup>、寺田 豊<sup>1</sup>、  
森崎 龍郎<sup>1</sup>、夏目 寿彦<sup>1</sup>、  
八木田 一雄<sup>2</sup>

- 1 札幌医大地域医療総合医学講座
- 2 松前町立松前病院

十数名のこじんまりとした参加でしたが、リフレクション、対話、ファシリテーション、変容学習のキーワードを皆でじっくり話し合いながら、理解、体験することができました。グループ内で SEA を行う際のグループ・プロセスについて、実際の様子をビデオ録画したものをそれぞれのファシリテーションの技法毎に解説し検討しました。このことは参加者から特に好評をいただくことができ、自施設での SEA 導入とファシリテーション技能向上に直接役立つ内容をお届けできたように思います。セッション後のアンケートによると、91%の参加者がファシリテーションを今後うまくできそうに思う、100%の参加者が SEA 導入が自施設での教育に有用、この WS が今後役に立つ、と評価いただきました。



### W-42 知って得する救急のトリビア

林 寛之<sup>1</sup>、森 祐樹<sup>2</sup>、  
川城 麻里<sup>3</sup>、堀田 敏弘<sup>4</sup>

- 1 福井県立病院
- 2 池田診療所
- 3 ケアセンターいぶき
- 4 大阪医科大学

寿司詰め状態の満員御礼どうもありがとうございました。まずは顔じゃんけんでグループ分け(笑)。3つのブースをめまぐるしくローテーションし、家庭医療で役に立つ救急手技を体験

学習。①脱臼ブース：痛くない鎮静のいらぬ肩甲骨回旋法（3S法）、アイーンのおじさん肘内障整復法、顎関節脱臼整復のコツを実施。参加者全員で行うアイーンは壮観！②手のブース：豚足（臭いましたね）で釣り針抜去実習、指の止血法、経腱鞘ブロックを実施。うまい人には沖縄限定ぶっちゃ進呈（アハ）。③気道緊急ブース：重い人形を汗をかきかき建物間を移動させ（涙）、人力枕や挿管ブジー実習。笑いの耐えないセッションで暖かく熱心な参加者に感謝します。



#### W-43 構造主義医療の挑戦

—実体をとらえるのは科学の言葉が自然の言葉か

名郷 直樹<sup>1</sup>、福士 元春<sup>1</sup>、  
八森 淳<sup>1</sup>、船越 樹<sup>1</sup>、  
桐ヶ谷 大淳<sup>2</sup>

1 社団法人地域医療振興協会地域医療研修センター  
2 田子診療所

構造主義医療の枠組みを利用し、高血圧と胃がんの新しい疾患定義をするという目標でセッションを行った。今回は以下に示す言語空間の構造と特徴に焦点を当てて、ディスカッションした。

- ・ある認識構造により発せられたコトバは他人の脳内の同じ言語構造を最もよく具現化する
- ・コトバはまれには自己の脳内と異なった言語構造を具現化する
- ・背反する言語構造はお互いに構造の具現化を阻止するが並存する場合もある
- ・この構造は重層化されている
- ・重層化の構造は、基底から、対応の恣意性・文節の恣意性、連辞関係、連合関係となる
- ・基底ほど構造はリジッド

多様な意見が出されたが、時間不足もあり、新しい疾患定義を議論するところまではいたらず、また次回のWSにつなげたいと考えている。



#### リサーチ・ワークショップ総括

葛西 龍樹

第23回 日本家庭医療学会 学術集会・総会 大会長  
(福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部 教授)

このワークショップは、今回の学術集会のハイライトとして、家庭医療研究の世界のエキスパートに参加者が自分の研究について直接相談してアドバイスをもらえるという企画だった。(1) 初級「診療からリサーチ・クエスチョンへ」(日常診療からどうやって研究アイデアを見つけ出すかのステップを学びたいレベル)、(2) 中級「リサーチ・クエスチョンから研究へ」(研究アイデアから具体的に研究をどう進めるかを学びたいレベル)、(3) 上級「研究から論文出版へ」(研究結果を論文として学術雑誌に投稿する技術を学びたいレベル) というレベル分けをして、事前にリサーチ・クエスチョンや研究概要などを用意してもらったコア参加者と、エキスパートとコア参加者の間のディスカッションを聴講する一般参加者を設定した。日本では家庭医療の研究活動がまだまだ乏しいことと、英語を使うワークショップだったためか、コア参加者が全レベル合計しても15人と少なかったのが残念であった。

ワークショップで際立っていたのは、エキスパートの指導力であった。参加者が持つ家庭医療研究についてのどんな疑問や不安にも丁寧に対応し、研究の具体的なヒントを数多く示して下さった。既存の医学研究のパラダイムとは異なる家庭医療研究の面白さについて、特に若手の参加者には新鮮だったに違いない。彼らにとって、(英語が使えるようになることも含めて)家庭医療をさらに学ぶ動機づけになったようである。

残念ながら急用で今回来日することができなかった Walter Rosser 教授 (WONCA 研究ワーキンググループ代表、カナダ) からは「The Five Weekend Research Program」という家庭医療研究を推進するワークショップを紹介する



パワーポイントが届いた。今後学会でこれを参考にしたプログラムが進められることを期待したい。



### 「リサーチ・ワークショップ」に参加して

竹中 裕昭  
(竹中医院)

今回、家庭医療の研究分野での世界的なエキスパートが、研究をブラッシュアップしてくれるという“リサーチ・ワークショップ”にコア参加者として参加した。

当日は、平成17年度に日本家庭医療学会から助成していただいた「フォーカスグループディスカッションを用いた診療所医師が行う家族アプローチの分析」を中心とした内容の発表を行った。私のこの度の目的は、すでに完了している研究をどのように学会発表あるいは論文として報告するかをディスカッションすることであった。

コメンテーターからは、家庭医療が概念として提唱してきたが、なかなか具現化できなかったことに対する1つのモデルを示したとの御評価をいただいた。そして、この発表を聞いて「明日からの診療をどう変えるか」「新たなリサーチクエスチョンをどう形成していくか」という視点をみなさまに与えることが重要であることを御指摘いただいた。

また、参加者のみなさまの間では、Doherty & Bairdのモデルと私たちのモデルとの違いや家族問題の定義に関する有意義なディスカッションを行うことができた。

最後に、運営面に関しては発表者として大いにとまどうことが多かったことは残念であったが、今回のセッションの成功は、コーディネーターの松下明先生(奈義ファミリークリニック)によるところが大きく、この場をお借りして感謝申し上げたい。



### リサーチ・ワークショップ

菅家 智史  
(福島県立医科大学 地域・家庭医療部)

このワークショップは、私のような研究に興味はあるけれど様々な障壁を感じている人たちが、世界で活躍されているエキスパートとディスカッションをする、という企画でした。私のグループはオランダのChris van Weel教授と、オーストラリアのChris Del Mar教授が担当で、私は自分の診療環境で見つけた疑問をプレゼンテーションしました。お二人と他の参加者の皆さんから、私の持っていた疑問を、どのようにすると研究の形にしやすいのか、具体的な点も含めて基本的なところからアドバイスいただき、研究への意欲が沸いてきました。ぜひ、今後の研究活動に活かしていきたいと思います。

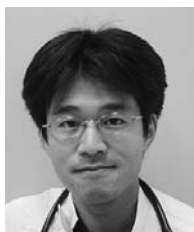


## 指名理事決定のお知らせ

選挙規約に基づき指名理事（5名以内）について検討いたしました結果、下記の先生方に決定、ご承諾いただきましたので、ご報告申し上げます。

- 朝倉 健太郎（健生会 大福診療所）  
雨森 正記（医療法人社団弓削メディカルクリニック）  
大橋 博樹（川崎市立多摩病院総合診療科）  
小林 裕幸（防衛医科大学校病院 総合臨床部）  
横谷 省治（三重大学医学部附属病院 総合診療部）

### 新役員のごあいさつ



#### 朝倉 健太郎

第3期若手家庭医部会は、「学びや研修をサポートする」「日常的な悩みを解消する」「家庭医としてのやりがいを共有する」という3つのビジョンを持っています。「家庭医療」が徐々に日本に定着しつつある現在、その推進力となりうる若手家庭医が育つ教育の場も、今まさに整えられていく段階に入りました。3学会合同を迎えたターニングポイントでもあります。より充実した学びの場が作られるよう、これら3つのビジョンをもとに若手家庭医の意見を理事会に届けたいと思います。若手家庭医部会代表として若手家庭医のため、ひいては学会員、患者さま、日本のみなさまのお役に立てるように務めていきたいと思っております。ご指導よろしくお願いたします。

#### 雨森 正記

このたび指名理事に再任させていただきました滋賀県医療法人社団弓削メディカルクリニックの雨森正記です。平成21年5月には京都で日本プライマリ・ケア学会と日本総合診療医学会との合同学術会議が予定されており、私が本学

会の責任者をさせていただいております。今後の3学会の発展に寄与できるような学会にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



#### 内山 富士雄

このたび新役員をお受けするにあたり抱負を述べさせていただきます。

ここ数年本学会は学生や研修医を育てることに多くのエネルギーを割いてきましたが、これは是非とも急を要する課題でありその結果短期間で立派な研修プログラムが数多く整備されたことは大いに評価されるものです。その反面、ベテランにとっては“なんとなく居心地の悪い”学会になった、という声もよく聞きます。ベテランが生き生きとした姿を見せてこそ若手もその背中を観て育つのだと思います。

中堅ないしベテランの方々の意見を役員会において代弁し、若手との融合を推進する役割を果たせればと私は考えています。そのような場面で私を御利用いただければ幸いです。





### 大橋 博樹

この度理事にご指名頂きました、川崎市立多摩病院の大橋博樹です。私達の研修時代はプログラムがまだ少なく、不安を抱えながら家庭医をめざしました。その後、理事の皆様のご尽力もあり、若手家庭医部会の創設や家庭医療後期研修プログラムの認定など、家庭医をめざす環境はめざましい進歩をとげました。現在、私自身は川崎市立多摩病院にて家庭医療後期研修医の教育に従事しており、診療とともに教育のやりがいと楽しさを日々実感しています。今後は3学会合併など重要な事案が山積しておりますが、「にっぽんの家庭医」になりたい学生さんや研修医が、普通に家庭医になれる・夢をもって研修できる環境作りに微力ながら貢献したいと考えております。また、「家庭医療研修の質」についてもこだわってまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



### 葛西 龍樹

「日本に住む人たちがより良い家庭医療を利用できるように」「日本で家庭医を目指す人たちがより良い教育を受けられるように」という私が家庭医療で最優先する「大きな目標」を学会として進めていけるように努力します。家庭医療のアカデミック面の振興にも取り組み、福島県立医科大学 地域・家庭医療部が持つ日本最大の家庭医療国際ネットワークから得られるさまざまな交流やチャンスを学会のためにも役立てます。3学会合同や医療確保政策が進むいわば混沌とした状況にあっても、「大きな目標」を見失うことなく真の「グローバル・スタンダード」を目指して、良く訓練された質の高い家庭医を多数養成していきます。会員のみなさんのご理解ご協力、そして熱意を期待しています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



### 亀谷 学

今、まさに日本に General Practice の専門医制度が誕生しようとしています。日本家庭医療学会は認定後期研修プログラム制度を確立し、日本プライマリ・ケア学会は専門医試験を実施し、日本総合診療医学会は病院総合医構想を掲げ、平成22年の三学会合併が現実味を帯びています。また、日本医師会は生涯教育カリキュラム（案）を提示しています。

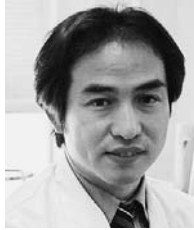
この大切な時期に、家庭医の質にこだわり、医学部卒前教育・初期後期臨床研修・生涯教育を通じて、家庭医になりたい人が満足のいく教育を受けられるように、指導医育成も充実させ指導医が happy に教育に携わることができるように、その結果、国民が求める家庭医・国際的に通用する家庭医であるように、“名称に拘るより家庭医の実を生かした専門医制度”を確立することに尽力する所存です。



### 草場 鉄周

医療提供システムが大きく揺らぎ、患者のニーズがますます多様となるこれからの日本では、家庭医療に求められる社会的な役割はますます高まるでしょう。そのとき、当学会が率先して展開してきた「若き家庭医の養成」という事業が持つインパクトは極めて大きく、日本の医療を変える原動力になる可能性も秘めていると感じています。

理事として、この事業の推進に向けて貢献すると同時に、3学会合併後にも当学会の持つ若いエネルギーを注ぎ込むために、微力ながら2年間働いていきたいと思っております。会員の皆さんの積極的な支援を心よりお願いいたします。



### 小林 裕幸

指名理事に任命されました小林と申します。しっかりとした認定研修プログラムのもと、患者さんに満足される家庭医（総合診療医）を増やすことが、家庭医療学会を含む3学会発展の最短の道と考えています。微力ではありますが、3学会が合併を迎えるジェネラリストの歴史的転換点にて、何か尽力できればと考えています。

また、今後は、自転車競技のチームドクターの経験を生かして家庭医療の後期研修後の subspeciality の一つとして、スポーツ医学 fellowship 等を発展できればと考えています。スポーツドクターは広い臨床能力、問題解決能力が必要とされ、米国では、老年医学と並ぶ家庭医療をベースにした後期研修後の専門性として認知されています。

皆様のご指導、ご鞭撻、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



### 白浜 雅司

山村へき地の公立診療所所長として地域医療を支えながら、医学生の診療所実習、必修化後の卒後2年目研修医の、卒後臨床研修の地域医療保健研修を受け入れてきました。

これまで担当してきた学会倫理委員会の仕事、田坂賞選考のことはきちんと3学会合同後もきちんと続けられるようにがんばりたいと思います。またこれまでの経験を生かし、3学会合同を目の前にして、真に国民の身近な医療福祉の支えることができる家庭医、総合医を増やせるように、しっかりとしたプログラム認定など新たな教育システム作りにがんばりたいと思いますし、すでに家庭医として働かれている方のブラッシュアップ教育も若い人の教育以上に大切だと思っています。



### 竹村 洋典

日本家庭医療学会発展の原動力は、市民のニーズにあると確信しております。したがって、日本家庭医療学会は市民の声を十分に聞き、それに応えるような活動をすべきと考えております。

そのために、関連3学会の合併までにさらに一歩でも二歩でも進んで以下を達成したいと考えます。

1. 家庭医療のより効率的な発展を目指して、家庭医療の精神を維持しつつも柔軟に関連3学会の合同を達成し、さらに日本医師会との協働関係を可能な範囲で構築
2. 市民に良質で均一な家庭医を提供するために後期研修プログラムの質をさらに向上する事業
3. 市民に家庭医療の質を担保するために本学会認定後期研修プログラム修了者に対して家庭医療専門医を認定
4. 国民に家庭医療をさらに認知させるための事業の実施、および本学会が市民のニーズに応えうるものであるか否かを検証する活動

これらの達成は、多くの会員の発案と協力・参加がカギと考えます。国民が真に必要とするような家庭医療の実現が本学会の目的と考え、そのために、会員の皆様とともに精力的に学会活動を行いたいと思っております。皆様のご指導、ご協力、どうかよろしくお願い申し上げます。

略歴 <http://www.medic.mie-u.ac.jp/soshin/takemura.htm>



### 長 純一

このたび初めて理事に選ばれました長と申します。今春より3年前まで6年間勤めた診療所に再赴任となり、診療以外に学生や研修医あるいはメディアの受け入れなどあわただしく過ごしております。理事としては未熟で、まずはご迷惑をおかけしないように自分が学ぶことが先かと考えています。一方で、私が農村医療・地域医療の視点で関心を持ち、また指導に力を入れてきた、在宅医療、看取り、介護・福祉、認知症、

地域づくり、社会医学（医療経済や社会保障政策）などは、今後世界に類をみない高齢社会になった日本においてはますます重要になる分野と考えられ、農村の第一線診療所にいる立場と合わせ、微力ながら学会に貢献できればと考えております。



### 西村 真紀

前期は倫理委員会で女性の立場で発言、集会での託児所担当、研修プログラムにおける産休、育休に関して発言をしてきました。今期も引き続き上記の仕事を行っていくほか、女性医師のみならず出産、育児、介護、また個々の理由で仕事を中断した方を応援したいです。具体的には学会認定プログラムやその他のプログラムにおいて再研修制度、ワークシェアリングを実現できるように積極的に援助したいと思います。

また、私自身が医師一人の診療所で働いている立場から、小さい医療機関でお勤めの会員の皆様のニーズをとりいれた実用的で楽しい生涯教育に取り組みたいです。

会員の皆様にはお気軽にご意見、ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。



### 伴 信太郎

日本の医学・医療の改善のためには、ジェネラリストの専門性の確立が極めて大切であると考えています。そのために重要なステップとして現在3学会の合同への準備が進行中ですが、役員としてはこの合同を無事離陸させることが最も重要な仕事だと考えています。そのためには、家庭医療学会がこれまで積み上げてきた事業（認定プログラム制度、若手向けの夏季セミナー、生涯教育セミナー等）の足場をしっかりと固めて、合同後もこれらの事業が継続されるように道筋をつけることが大切だと考えています。



### 藤沼 康樹

1. 全国の家家庭医療後期専門研修プログラムの質的向上を援助すること
  2. 指導医が学び成長できる場を創造すること
  3. 家庭医療学の確立のために、家庭医療の現場における研究を推進すること
  4. 質の高い、妥当性のある認定試験制度を確立すること
- 以上のことに粉骨砕身取り組もうと思います。皆様のご支援、ご鞭撻よろしく願いいたします。



### 前野 哲博

最近、家庭医療に対する注目が集まり、一般の報道でも家庭医という言葉をよく耳にするようになりました。しかしながら、医療界での認知度はまだ十分ではなく、家庭医療に興味を持つ学生・研修医は格段に増えてはいるものの、進路として家庭医を選ぶ人はまだまだ少数にとどまっているのが現状です。今後、家庭医療の発展のためには、専門医制度を含めたキャリアパスをより明確にして、身近なロールモデルを増やしていく必要があります、学会として果たすべき役割も大きいと思います。3学会合併を控え、家庭医療学会としては最後の任期になりますが、家庭医療の発展に微力ながら貢献できるよう、がんばりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。



### 松下 明

「こころやさしく頼りになる家庭医」を数多く生み出すことに貢献したいです。

学会の合併に際して、家庭医療後期研修システムの確立（現在の3年間プログラムと終了後の3学会合同専門医試験）を最優先課題として取り組んでいきたいと思っております。

また、日本式家庭医の育成においては米国で

いうところの行動科学の教育を「患者中心の医療」「家族志向のケア」領域の教育に置き換えて、日本全国でこの領域の教育がスムーズに行われる努力をしていきたいと考えています。



### 山田 隆司

今回3期目の代表理事を務めさせていただくことになりました。これまで学会の法人化、家庭医療後期研修プログラムの認定作業、指導医養成等を学会の重要課題として進めてきましたが、会員の皆様のご協力とご支援で何とか一定の成果をあげてられました。

今期の目標はご承知のとおり3学会合併の推進、これまで日本家庭医療学会が果たしてきた実績をふまえ、質の高い新学会の設立に貢献することだと考えています。単に学会や会員の利益を優先するための合併ではなく、国民に受け入れられる、国民に切望され信頼される家庭医を生み出す新しい学会作りに微力ながら力を注ぎたいと思っています。



### 山本 和利

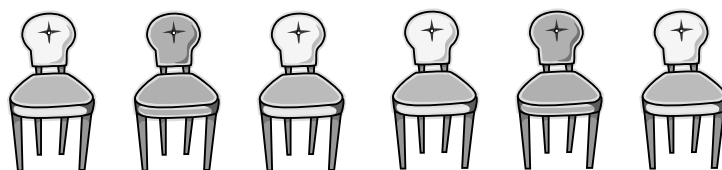
家庭医療を推進するものの一人として、地域医療や病院医療の担い手を養成し地域の現場に一人でも多くの医師を送り出すことに関わってゆきたいと思っています。



### 横谷 省治

三重大学医学部附属病院総合診療部の横谷省治です。この度、指名を受けて理事に任命されました。3学会合併が視野に入ったこの時期に務めさせていただくこととなり、身の引き締まる思いをしております。本学会認定の家庭医療研修プログラムが整備され、全国で家庭医療後期研修医の受入れが可能となってきました。この研修プログラムをより質の高いものとしていくことや、市民のニーズに応える専門医制度の確立が喫緊の課題となっております。3学会合併が円滑なスタートを切れるよう、これらの課題に取り組んでいきたいと思ひます。

また、ベテランも若手も切磋琢磨していけるこの学会の特色を、グレードアップしていければという希望を抱いています。皆様のご指導を賜りたく、よろしくお願ひいたします。



---

---

## 若手家庭医部会新役員からひとこと

### 朝倉健太郎

『家庭医は生涯に渡り幅広く学びを続けていかなくてはならない存在だといえます。若手家庭医部会は、まさにそのような駆け出しの若手家庭医たちがよりよい学びを続け、お互いに育ち合うことのできる場を提供すべく、「学びや研修をサポートする」「日常的な悩みを解消する」「家庭医としてのやりがいを共有する」という3つのビジョンを掲げました。この数年間は3学会合同を迎えたターニングポイントでもあります。副代表の八藤先生、横林先生をはじめ役員会メンバーとともに若手家庭医のニーズに幅広く応えていけるようがんばっていきたいと思います。みなさまの忌憚のないご意見、ご協力をよろしくお願いいたします。』

### 八藤 英典

「皆様、初めまして。若手家庭医部会副代表の八藤英典です。私が家庭医を志した当時は、後期研修プログラムを提供している施設が数施設しかなく、家庭医療は日本に必要な医療に達しないと信じることで、いろいろな悩みや迷いを心の奥に閉じこめて、日々、働いていました。

この2年間は、日本全国の後期研修プログラムの後期研修医をはじめ、若手のメンバーが、

悩みや迷いだけでなく、そのやりがいや夢を語り合って、お互いに切磋琢磨できるように、ビジョンを共有して、運営していきたいと思っております。

我々、一人一人の力は微力かもしれませんが、力を合わせることで大きな力にして、日本の家庭医療に貢献したいと思っています。皆様、よろしくお願いいたします。」

### 横林 賢一

研修医が元気な病院は、その病院自体も元気であるという話をよく耳にします。これは、研修医が発言しやすく働きやすい環境を指導医が整備してくれているからだと思います。そして、みんなで元気になっていく。…この win-win の形態は、まさに家庭医療学会と若手家庭医部会の関係ともいえると考えます。僕は家庭医療学会が未来のために作ってくださった家庭医療後期研修プログラムに参加させていただいています。現役の後期研修医そして若手家庭医部会副代表として、熱い若手の生の声を学会に伝え、みんなでさらに元気になっていけるよう全力を尽くす所存でございます。みなさま、どうぞよろしく申し上げます。



# 平成20年度第1回日本家庭医療学会理事会議事録

日時：2008年5月31日（日）9:00～10:00

会場：東京大学 山上会館 地階 001

出席者：代表理事 山田隆司  
副代表理事 竹村洋典、葛西龍樹  
理事 雨森正記、生坂政臣、大西弘高、亀谷 学、草場鉄周、小林裕幸、  
白浜雅司、西村真紀、伴信太郎、藤沼康樹、松下 明、三瀬順一、  
森 敬良、山本和利（以下は、委任状による出席）岡田唯男  
監 事 藤崎和彦  
幹 事 福土元春  
オブザーバー 阪本直人

（以上、敬称略）

理事会定数18名中18名（うち委任状出席1名）の出席により、理事会成立

## 1. 会員数報告、新入会員承認、会費未納退会者

山田代表理事より、2008年4月30日現在で会員数が1,701名となったこと、今回の退会者数には、会費未納による退会者が含まれていることが報告された。

松下理事より会費未納者への督促の有無について質問があった。これに対し、学会事務局より例年2月に督促状を送付し、2年以上会費を滞納している会員については年度末までに会費入金がない場合、退会となる旨を通知していることが報告された。

つづいて新入会者について承認された。

会員数：1,701名（うち、医師会員1,580名）

入会者：92名

（2008年2月1日～2008年4月30日）

退会者：103名

（2008年2月1日～2008年4月30日）

未納者：63名（H17まで納入済）

会費未納率：64%（2008年4月30日現在）

## 2. 平成19年度事業・決算報告

山田代表理事より、平成19年度の事業および決算について報告があった。予算と比較し、収入の部では、会員数の増加、プログラム認定登録費、学術集会の黒字決算、Sceneの販売等により収入が増加したことが説明された。支出の部では、3学会合同会議、Scene印刷費等が予算を

上回ったことが報告された。この結果、次期繰越金が7,291,802円となったことが報告された。

## 3. 同年度監査報告

藤崎監事より、会計監査および学会運営の総括および評価が述べられた。昨年に続き100万円程度の赤字決算となっていることについて、プログラム認定や3学会合併に関する会議増加はやむを得ないが、行事開催による赤字決算が多いことも関連しているとの意見が述べられた。また収入について、今期はプログラム登録費による収入と会員の増加による収入増があったが、このような収支構造でよいかどうかとの感想とともに、解散・合併時には、赤字も黒字も持たないよう運営を行うことが適切との意見が述べられた。

監査および事業報告・決算内容について承認された。

## 4. 平成20年度事業計画・予算について

山田代表理事より、平成20年度事業計画・予算について下記の説明がなされ、当期は330万の赤字となり、繰越金は400万弱となる見込みであることが述べられた。

収支差額が赤字となることについて、前項の監事からの指摘を踏まえ改善策を検討することが必要との前提のうえで、夏期セミナー等の学

生へのサポート、交流については本学会の特徴として予算の枠組みだけにとらわれず継続して行う方向が示された。

事業計画・予算内容について承認された。

## 5. 常設委員会・部会・ワーキンググループ報告

### ◇ 編集委員会

藤沼理事より、今までは査読について諾否の伺いを行っていなかったが、今後は諾否を伺ったうえで依頼する形に変更したことが報告された。

### ◇ 広報委員会

松下理事より、会報は予定通り年4回発行を行っていることが報告された。

三瀬理事より、学会ホームページについて掲載情報の整理が行われたこと、委員を募りアドバイザーの立場で合意を得て進める形ができたことが報告された。一般向けのページについては、任期中に完成に至らなかったが、現在の方向で次期担当者に引き継ぎたいと述べられた。

### ◇ 生涯教育委員会

伴理事より、明日夜に委員会の開催が予定されており、第16回生涯教育ワークショップの準備状況について雨森理事を中心にプログラミングを行っていることが報告された。また、広島でのサテライトワークショップ開催、田坂先生メモリアル出版『Scene』の増刷についても企画が進んでいること、引き続き会報へのCMEのリソース提供を行っていくことが報告された。

### ◇ 研究委員会

山本理事より、学会賞の審査方法の改訂を行ったことが報告された。

### ◇ 倫理委員会

白浜理事より、倫理審査依頼が一件あったこと、本理事会終了後に開催される倫理委員会での倫理的な配慮についてプロの方の意見を聞いたうえでもう少し提示していきたいとの意向が示された。また、倫理コンサルテーションの依頼件数は0件との報告がなされ、今後は受け皿があることについてアピールしていくことを考え

ていることが述べられた。

### ◇ 後期研修（FD）委員会

草場理事より、指導医養成WSについて年3回の開催で日程を調整していることが報告された。昨年度の同事業の赤字については、開催日程の決定が遅れたことで安い会場をおさえることが出来なかったことも一因であるとの意見が出され、今後は、日程の早期決定による安価な会場予約の実現、参加費用の検討などを行っていくことが課題となった。

また、執行部より、プログラム責任者の会の代表者がオブザーバーとして理事会に出席予定であること、前回のプログラム責任者の会にて同会の規約について改定案が出されたことが報告され、改訂案については理事会メーリングリストまたは次回理事会で承認を得たい意向であることが述べられた。

### ◇ 患者教育用パンフレット作成WG

阪本氏より、患者教育パンフレットは、現在53名の作成メンバーにより構成されていることが報告された。また、小児からターミナルケアまで22のテーマを、グループまたは個人で担当する予定であり、活動の進行は予定より遅れているが、学術集会の懇親会時にメンバー約20名が顔合わせを行い、今後の活動を盛り上げていく予定であることが述べられた。

### ◇ 若手家庭医部会

森理事より、若手家庭医部会の活動について報告があった。

- ・第3回冬期セミナーは参加者が少なかったことが主な原因で赤字決算となったが、今後は場所等を検討し赤字を埋めていきたい。
- ・若手家庭医部会の選挙を行い、朝倉健太郎新代表が選出された。
- ・後期研修医の進路選択について、若手家庭医部会として協力、支援していく予定である。
- ・明日総会を開催し、今後の事業方針を決めていく。
- ・冬期セミナー時に開催されたポストセミナーにて登録研修医の会が初めて行われ、19名の登録研修医が参加した。その中で、後期研修

医がロールモデルや施設を越えた交流などを求めていることが分かった。

- ・今回の学術集会ではワークショップ「後期研修医と語る後期研修」を開催し、その内容はWEBにて報告を掲載する予定。

#### ◇ 学生研修医部会

小林理事より、8月9日～11日に開催される夏期セミナーについて報告があった。

夏期セミナーに医師・医学生以外（歯学部の学生や看護学生など）からの参加希望があることが報告され、定員にあまりがあれば参加を少人数で認めていくことが承認された。

#### 6. 第23回日本家庭医療学会学術集会について

葛西副代表理事より、学術集会について、海外講師2名が事情により参加できなくなったことが報告された。また、海外講師の旅費負担についての変更案が提案された。当初の予算の範囲内での変更であることが説明され、承認された。

#### 7. 第24回日本家庭医療学会学術集会について

雨森理事より、第24回学術集会（合同大会）について、プライマリ・ケア学会が事務局となり、大枠の原案が示された段階であることが報告された。

最後に山田代表理事より、これまでの2年間の学会運営に対する評価とお礼が述べられた。

## 日本家庭医療学会新役員会議事録

日時：2008年5月31日（日）10:00～11:00

会場：東京大学 山上会館 地階001（東京都文京区本郷7-3-1）

出席者：新役員 内山 富士雄、大西 弘高、葛西 龍樹、亀谷 学、草場 鉄周、  
白浜 雅司、竹村 洋典、長 純一、西村 真紀、伴 信太郎、  
藤沼 康樹、前野 哲博、松下 明、山田 隆司、山本 和利、  
若手家庭医部会 朝倉 健太郎  
選挙管理委員 齊藤 裕之

（以上、敬称略）

### 1. 選挙管理委員長挨拶

選挙管理委員の齊藤委員長より、今回の選挙に関して報告があり、前回の選挙の投票数から比べ、2倍の投票数となったことが述べられた。

選挙結果：有権者数1711名

投票数 2180票

（うち、白票338票、無効票4票）

選挙用紙を紛失した場合の対応について、今回は重複投票になる可能性があるため再発行はしないという結論を出したことが報告され、今後も再発行はしないということで選挙公告に追加することが提案された。この件については、今後の理事会で議論していくこととなった。

### 2. 新代表理事選出

山田（現）代表理事が選任され、被選任者はその就任を承諾した。

### 3. 新代表理事挨拶

山田（新）代表理事より、就任にあたっての抱負が述べられた。

### 4. 新副代表理事選出

副代表理事に葛西（現）副代表理事と竹村（現）副代表理事が選任され、被選任者はその就任を承諾した。



## 5. 監事選出

監事に亀谷（現）理事と山本（現）理事がそれぞれ選任され、被選任者はその就任を承諾した。

## 6. 指名理事について

指名理事の候補として、3学会の意見の取りまとめをする能力のある方、立候補者、開業医、若手医師などの意見が出され、決定については役員選挙規則に基づいて山田代表理事に一任することとなった。

## 7. 若手家庭医部会事業

若手家庭医部会の朝倉新代表より、若手家庭医部会の選挙結果について報告があった。また、今後の活動計画と抱負が述べられた。

## 8. 会員数報告

山田（新）代表理事より、会員数について報告があった。

会員数：1,701名（うち、医師会員 1,580名）

入会者：92名

（2008年2月1日～2008年4月30日）

退会者：103名

（2008年2月1日～2008年4月30日）

未納者：63名（H17まで納入済）

会費未納率：64%（2008年4月30日現在）

## 9. 平成20年度事業・予算について

山田（新）代表理事より、平成20年度の事業計画・予算について説明があり、先に開催された現理事会で承認されたことが報告された。

## 10. 後期研修プログラムについて

竹村副代表理事より、家庭医療指導医申請書の変更案について説明があった。申請書の内容のほか、この申請を行う対象者や認定までのプロセス、認定基準について各種意見が出され、今回の議論を踏まえて認定委員会にて再度変更案を作成しなおすこととなった。

その他、指導医申請について、申請料を設定するべきとの意見が出された。

## 11. 3学会の合併について

山田代表理事より、3学会合併の進捗状況について報告があった。

- ・前項の後期研修プログラムについて、3学会での認定試験にも関係してくることから、今後はさらに認定委員会の組織を強化し、特に事務的な面で竹村副代表理事を中心に進めていきたい。また、指導医や制度設計、日本家庭医療学会認定後期研修プログラム Ver.2の作成についても早急に調整していきたいとの意向が示された。
- ・来年度のプログラム修了者の認定試験は、プライマリ・ケア学会と合同で行う方向で調整が進んでいるが、具体的な内容はまだ決まっていないことが報告された。これに対し、試験の方法や日程などについて、早めにアナウンスを行う必要があるとの意見が出された。
- ・3学会の合併による学会の解散については、来年の総会で承認を諮ることが報告された。
- ・3学会合同の法人化検討委員会について、現在は福士幹事と事務局が参加しており、今回の役員改選を機に新理事にも加わっていただきたいとの要望が述べられた。

## 12. その他

竹村副代表理事より、「プライマリ・ケア医のための臨床研究デザイン塾」への後援依頼があったことについて、3学会合同で進める研究に関する後援については受けることが過去の理事会で承認された経緯に基づき、今回も後援を行うこととしたことが報告された。

最後に山田代表理事より、指名理事を早めに決定して報告すること、次回理事会にて各委員会の新メンバーを決定する予定であることが述べられた。

# 平成19年度特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成20年 3月31日現在

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会

(単位：円)

科 目	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金	41,380		
普通預金	1,849,670		
郵便振替金	4,377,304		
前払金			
第20回夏期セミナー	914,985		
第16回生涯教育ワークショップ	1,470		
第23回学術集会	456,738		
流動資産合計		7,641,547	
<b>資産合計</b>			<b>7,641,547</b>
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金			
プログラム認定審査事業	17,640		
印刷製本費(選挙関連分)	164,325		
WEBサイト更新費	10,500		
前受会費			
正会員	154,000		
学生会員	4,000		
流動負債合計		350,465	
<b>負債合計</b>			<b>350,465</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
正味財産			7,291,082
(うち当期正味財産減少額)			5,125,171
<b>負債及び正味財産合計</b>			<b>7,641,547</b>

# 平成19年度特定非営利活動に係る事業会計財産目録

平成20年 3月31日現在

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会

(単位：円)

科 目	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金	41,380		
普通預金	1,849,670		
郵便振替金	4,377,304		
前払金			
第20回夏期セミナー	914,985		
第16回生涯教育ワークショップ	1,470		
第23回学術集会	456,738		
流動資産合計		7,641,547	
<b>資産合計</b>			<b>7,641,547</b>
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金			
プログラム認定審査事業	17,640		
印刷製本費(選挙関連分)	164,325		
WEBサイト更新費	10,500		
前受会費			
正会員	154,000		
学生会員	4,000		
流動負債合計		350,465	
<b>負債合計</b>			<b>350,465</b>
<b>正味財産</b>			<b>7,291,082</b>

# 特定非営利活動に係る事業会計収支決算書

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会  
(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
<b>事業活動収支の部</b>				
<b>I 収入の部</b>				
1 会費収入				
正会員会費収入	9,600,000	11,878,000	-2,278,000	1)
学生会員会費収入	200,000	196,000	4,000	
2 事業収入				
学術集会開催事業収入	6,500,000	8,560,580	-2,060,580	
教育研修事業収入				
・第19回夏期セミナー	5,000,000	5,958,007	-958,007	
・第15回家庭医の生涯教育のためのWS	3,740,000	4,537,000	-797,000	
・第3回冬期セミナー	2,200,000	1,682,800	517,200	
・家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのWS	2,400,000	1,631,000	769,000	3回開催
・臨床研究初学者のためのWS	500,000	0	500,000	
家庭医療に関する調査研究事業収入	0	3,199,475	-3,199,475	
プログラム認定登録費	0	359,500	-359,500	広告収入、販売、別刷代
会誌発行収入				
3 雑収入				
・預金利息	0	7,637	-7,637	
・SCENE販売	0	1,787,830	-1,787,830	
<b>事業活動収入合計</b>	<b>30,140,000</b>	<b>39,797,829</b>	<b>-9,657,829</b>	
<b>II 支出の部</b>				
1 事業費				
学術集会開催事業費	8,500,000	8,534,512	-34,512	
学術集会等の開催事業費				
・第19回夏期セミナー	5,800,000	6,491,577	-691,577	
・第15回家庭医の生涯教育のためのWS	3,740,000	4,511,603	-771,603	
・第3回冬期セミナー	2,350,000	2,239,841	110,159	
・家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのWS	2,400,000	2,983,683	-583,683	3回開催
・3学会合同シンポジウム	0	137,020	-137,020	
・臨床研究初学者のためのWS	600,000	0	600,000	
家庭医療に関する情報交換事業費				

・会員用メールマガジスト管理費	21,000	21,000	0		
・学生・研修医部会メールマガジスト管理費	31,500	31,500	0		
家庭医療に関する調査研究事業費					申請書受付、申請書印刷費、旅費交通費等
・プログラム認定審査事業費	1,000,000	880,046	119,954		
・プログラム検討事業費	1,000,000	0	1,000,000		
・倫理委員会活動費	100,000	104,943	-4,943		1回開催
広報活動・情報提供事業費					
・WEBサイト更新管理費	300,000	381,864	-81,864		ホームページ更新費、ドメイン維持費
内外の関連団体との連携事業費					
・プライマリ・ケア教育連絡協議会参加事業費	80,000	70,630	9,370		PC教育連絡協議会年会費
・3学会合同会議参加事業費	100,000	621,252	-521,252		旅費交通費
・認定医認証機構への参加検討事業費	100,000	0	100,000		
会報および機関誌等の発行事業費					
・会誌編集発行事業費	2,000,000	2,540,883	-540,883		2回発行
・会報編集発行事業費	1,500,000	2,488,221	-988,221		4回発行
その他の目的達成に必要な事業費					
・学会賞事業費	87,000	82,000	5,000		
・研究助成金事業費	610,000	586,257	23,743		研究補助金、公募費
・患者教育パンフレット作成事業	300,000	7,350	292,650		
・若手家庭医部会キャッチアップ事業費	0	5,490	-5,490		
<b>事業費支出合計</b>	<b>30,619,500</b>	<b>32,719,672</b>	<b>-2,100,172</b>		
<b>2 管理費</b>					
事務局費	2,052,750	1,911,777	140,973		
会議費	3,500,000	3,225,630	274,370		執行部会、理事会、若手家庭医部会、総会
旅費交通費	200,000	112,710	87,290		事務局スタッフ旅費交通費
通信運搬費	450,000	646,443	-196,443		電話代、切手・郵送代等
消耗品費	30,000	49,185	-19,185		
印刷製本費	600,000	2,174,792	-1,574,792		SCENE印刷費126万円、選挙関連544,050円等
雑費	150,000	167,187	-17,187		振込手数料等
<b>管理費支出合計</b>	<b>6,982,750</b>	<b>8,287,724</b>	<b>-1,304,974</b>		
<b>事業活動支出合計</b>	<b>37,602,250</b>	<b>41,007,396</b>	<b>-3,405,146</b>		
<b>当期収支差額</b>	<b>-7,462,250</b>	<b>-1,209,567</b>	<b>-6,252,683</b>		
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>8,500,649</b>	<b>8,500,649</b>	<b>0</b>		
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>1,038,399</b>	<b>7,291,082</b>	<b>-6,252,683</b>		

1) 正会員11,878,000円(H16年度72,000円、H17年度520,000円、H18年度1,240,000円、H19年度10,046,000円)、学生会員196,000円(H17年度20,000円、H18年度26,000円、H19年度150,000円)

## 平成19年度の事業報告書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

特定非営利活動法人日本家庭医療学会

### 1 事業の成果

- ・以下の事業を実施した。
- ・特に、以下の事項は特記すべき項目である。
- ・後期研修プログラムの本認定を実施した。これによって、家庭医を養成するシステムが完成し、家庭医を地域に送り出すことが可能となり、また、国民に家庭医の質を担保できるようになった。
- ・今年度は3回の「家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのワークショップ」を開催した。これによって、家庭医を養成する良質の指導医を育成し、また指導医の資格を付与することができた。
- ・家庭医療後期研修プログラム責任者の会を年3回開催した。さらに定款を作成した。これによってプロ

グラムの形成的評価、またそれによってプログラムの改善を図る基礎が完成した。

- ・学術集会・総会、学生研修医のための夏期セミナー、生涯教育の秋季セミナー、若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナーは、昨年も盛況であった。
- ・家庭医療研究促進のために学会賞などを設け、また、研究補助事業を行った。
- ・日本プライマリ・ケア学会、日本総合診療医学会と合併への協議を行い、総会において、これらの2学会と合併する方向で作業を行うことの承認を得た。
- ・総合（診療）医の認定のために、日本医師会と協働して作業を行った。

### 2 事業の実施に関する事項

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の 事業費の金額 (単位:千円)
学術集会・総会	家庭医療の研修・教育や研究のための学術集会を開催した。	(A) 6月23- 24日に行った。 (B) 損保会館 (C) 40名	(D) 家庭医療に関心がある医療関係者および個人 (E) 約650名	8,534
教育集会(セミナー、ワークショップ)等の開催	医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナーを開催した。	(A) 8月4-6日に行った。 (B) クリアビューホテル (C) 20名	(D) 家庭医療に関心がある医学生及び医療関係者 (E)193名	6,491
教育集会(セミナー、ワークショップ)等の開催	家庭医の生涯教育のためのワークショップを開催した。	(A) 11月10-11日に行った。 (B) 天満研修センター (C) 10名	(D) 家庭医療に関心がある医療従事者 (E)261名	4,511
教育集会(セミナー、ワークショップ)等の開催	若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナーを開催した。	(A) 2月9-10日に行った。 (B) トーコーンティールホテル梅田 (C) 8名	(D) 家庭医療に関心がある若手医師及び医療関係者 (E)72名	2,239
教育集会(セミナー、ワークショップ)等の開催	家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのワークショップを開催した。	(A) 6月9-10日、9月1-2日、12月1-2日に行った。 (B) 都道府県会館、ビジョンセンター秋葉原、TKP銀座ビジネスセンター (C) 10名	(D) 家庭医療後期研修プログラム指導医 (E) 延べ318名	2,983
教育集会(セミナー、ワークショップ)等の開催	日本プライマリ・ケア学会、日本家庭医療学会、日本総合診療医学会による3学会合同シンポジウムを行った。	(A) 平成19年3月21日に行った。 (※会計上、平成19年度の会計となったため記載) (B) 損保会館 (C) 10名	(D) 家庭医療に関心がある若手医師及び医療関係者 (E) 約200名	137
家庭医療に関する情報の交換	家庭医療に関する情報交換のためのメーリングリストを運営した。	(A) 通年行った。 (B) メーリングリスト (C) 3名	(D) 会員 (E) 約1,100名	21
家庭医療に関する情報の交換	学生・研修医を中心とする家庭医療に関する情報交換のためのメーリングリストを運営した。	(A) 通年行った。 (B) メーリングリスト (C) 3名	(D) 家庭医療に関心がある医学生・研修医及び医療関係者 (E) 約700名	31

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	収支計算書の 事業費の金額 (単位:千円)
家庭医療に関する調査研究	家庭医療後期研修プログラム責任者がそのプログラム認定等に関する内容を討議する会議を開催した。	(A) 9月1日、12月1日 (B) ビジョンセンター秋葉原、TKP銀座ビジネスセンター (C) 延べ約300名	(D) 家庭医療後期研修プログラム責任者、および家庭医療後期研修プログラムに関わる医療従事者 (E) 延べ 約90名	※ 0
家庭医療に関する調査研究	プログラム認定受付、審査および認定証発行事業を行った。	(A) 通年行った。 (B) 本法人のホームページ、メーリングリスト、主たる事務所 (C) 20名	(D) 家庭医療後期研修プログラム責任者、および家庭医療後期研修プログラムに関わる医療従事者 (E) 約1,000名	880
家庭医療に関する調査研究	家庭医療にかかわる研究計画の倫理審査を行った。	(A) 随時行った。 (B) メール (C) 6名	(D) 家庭医療にかかわる研究を行おうとする医療従事者 (E) 申請された研究の関係者	104
家庭医療に関する広報活動及び情報提供	ホームページを利用して家庭医療に関する広報及び情報提供を行った。	(A) 通年行った。 (B) 本法人のホームページ (C) 2名	(D) 家庭医療に関心がある個人及び団体	381
内外の関連団体との連携	家庭医療・プライマリ・ケアに関連する5学会、団体の方針を調整するプライマリ・ケア教育連絡協議会への活動に参加した。	(A) 4月23日、7月2日、1月14日、3月21日 (B) 日本プライマリ・ケア学会事務局、損保会館 (C) 3名	(D) 日本において家庭医療、プライマリ・ケアの認定に関わる者 (E) 不特定多数	70
内外の関連団体との連携	家庭医療、プライマリ・ケアに関連する3学会、団体の方針を調整する3学会合同会議への活動に参加する。	(A) 随時行う。 (B) 未定 (C) 3名	(D) 日本において家庭医療、プライマリ・ケアの認定に関わる者 (E) 不特定多数	621
会報及び機関誌等の発行	家庭医療の教育・研究、家庭医療の専門性の確立、及び会員との連絡調整のための学会誌の編集、発行、ホームページへの掲載を行った。	(A) 4-5月、11-12月行った。 (B) 編集委員の職場、及び主たる事務所 (C) 7名	(D) 主に家庭医療に関心がある医療関係者及び大学医学部 (E) 大学医学部80機関と不特定多数	2,540
会報及び機関誌等の発行	家庭医療の教育・研究、家庭医療の専門性の確立、会員との連絡調整のための会報の編集、発行、ホームページへの掲載を行った。	(A) 5-6月、7-8月、10-11月、1-2月に行った。 (B) 広報委員の職場及び主たる事務所 (C) 2名	(D) 家庭医療に関心がある個人及び団体 (E) 不特定多数	2,488
その他、本法人の目的達成に必要な事業	家庭医療に関する若手会員によるすぐれた研究に対し、学会賞を提供する研究助成を行った。	(A) 5月14日に行った。 (B) 名古屋国際会議場 (C) 6名	(D) 会員 (E) 1名	82
その他、本法人の目的達成に必要な事業	日本の家庭医療の発展に寄与すると思われる家庭医療関連の研究に対して助成金を提供する課題研究助成を行った。	(A) 平成19年12月-平成20年1月まで募集し、平成19年3月に対象者が決定した。 (B) 特になし (C) 3名	(D) 会員 (E) 3名	586
その他、本法人の目的達成に必要な事業	患者教育用パンフレット作成及びホームページへの公開のためのメンバー募集を行った。	(A) 随時行った。 (B) 本法人のホームページ及びメーリングリスト (C) 15名	(D) 患者教育に関心がある個人及び団体 (E) 不特定多数	7
その他、本法人の目的達成に必要な事業	若手家庭医部会によるキャッチフレーズの一般公募を行い、「困ったら 一家の主治医 家庭医へ」が決定した。	(A) 随時行った。 (B) 本法人のホームページ (C) 15名	(D) 家庭医療に関心がある個人及び団体 (E) 不特定多数	5

※指導医養成WSと同時開催のため

# 特定非営利活動に係る事業会計収支予算書

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
<b>事業活動収支の部</b>				
<b>I 収入の部</b>				
1 会費収入				
正会員会費収入	11,878,000	14,250,000	-2,372,000	1万円×1425名(=1900名うち会費納入率約75%)
学生会員会費収入	196,000	180,000	16,000	2千円×90名(=120名うち会費納入率約75%)
2 事業収入				
学術集会開催事業収入	8,560,580	10,000,000	-1,439,420	
教育研修事業収入				
・第19回夏期セミナー	5,958,007	4,000,000	1,958,007	
・第15回家庭医の生涯教育のためのWS	4,537,000	3,740,000	797,000	
・第3回冬期セミナー	1,682,800	2,200,000	-517,200	
・家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのWS	1,631,000	1,650,000	-19,000	
・臨床研究初学者のためのWS	0	600,000	-600,000	
家庭医療に関する調査研究事業収入				
・プログラム認定登録費	3,199,475	850,000	2,349,475	
会誌発行収入	359,500	520,000	-160,500	広告収入、販売、別刷代
3 雑収入				
・預金利息	7,637	5,000	2,637	
・SCENE販売	1,787,830	181,830	1,606,000	前期末時点の残数87冊×2090円(送料込み)
<b>事業活動収入合計</b>	39,797,829	38,176,830	1,620,999	
<b>II 支出の部</b>				
1 事業費				
学術集会開催事業費	8,534,512	11,000,000	-2,465,488	
教育集会等の開催事業費				
・第19回夏期セミナー	6,491,577	4,800,000	1,691,577	
・第15回家庭医の生涯教育のためのWS	4,511,603	3,740,000	771,603	
・第3回冬期セミナー	2,239,841	2,350,000	-110,159	
・家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのWS	2,983,683	1,650,000	1,333,683	
・学会合同シンポジウム	137,020	150,000	-12,980	
・臨床研究初学者のためのWS	0	600,000	-600,000	
家庭医療に関する情報交換事業費				



・会員用メールマガジスト管理費	21,000	21,000	0	
・学生・研修医部会メールマガジスト管理費	31,500	31,500	0	
家庭医療に関する調査研究事業費				申請書受付、申請書印刷費、旅費交通費等
・プログラム認定審査事業費	880,046	600,000	280,046	プログラム責任者
・プログラム検討事業費	0	100,000	-100,000	1回開催
・倫理委員会活動費	104,943	117,110	-12,167	
広報活動・情報提供事業費				
・WEBサイト更新管理費	381,864	300,000	81,864	
内外の関連団体との連携事業費				
・プライマリ・ケア教育連絡協議会参加事業費	70,630	80,000	-9,370	PC教育連絡協議会年会費
・3学会合同会議参加事業費	621,252	2,000,000	-1,378,748	事務委託費、旅費交通費等
・認定医認証機構への参加検討事業費	0	300,000	-300,000	旅費交通費
会報および機関誌等の発行事業費				
・会誌編集発行事業費	2,540,883	3,180,000	-639,117	3回発行
・会報編集発行事業費	2,488,221	1,700,000	788,221	4回発行
その他目的達成に必要な事業費				
・学会賞事業費	82,000	87,000	-5,000	研究補助金、公募費
・研究助成金事業費	586,257	610,000	-23,743	
・患者教育パンフレット作成事業	7,350	1,300,000	-1,292,650	
・若手家庭医部会キャッチアップ事業費	5,490	0	5,490	
・田坂賞選考事業費	0	100,000	-100,000	※費用15万円のうち5万円はTFCより補助
<b>事業費支出合計</b>	<b>32,719,672</b>	<b>34,816,610</b>	<b>-2,096,938</b>	
2 管理費				
事務局費	1,911,777	2,366,700	-454,923	※1
会議費	3,225,630	3,000,000	225,630	事務局スタッフ旅費交通費
旅費交通費	112,710	150,000	-37,290	電話代、切手・郵送代等
通信運搬費	646,443	500,000	146,443	
消耗品費	49,185	50,000	-815	
印刷製本費	2,174,792	500,000	1,674,792	コピー代、封筒
雑費	167,187	150,000	17,187	振込手数料等
<b>管理費支出合計</b>	<b>8,287,724</b>	<b>6,716,700</b>	<b>1,571,024</b>	
<b>事業活動支出合計</b>	<b>41,007,396</b>	<b>41,533,310</b>	<b>-525,914</b>	
<b>当期収支差額</b>	<b>-1,209,567</b>	<b>-3,356,480</b>	<b>2,146,913</b>	
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>8,500,649</b>	<b>7,291,082</b>	<b>1,209,567</b>	
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>7,291,082</b>	<b>3,934,602</b>	<b>3,356,480</b>	

※1 執行部会、理事会、若手家庭医部会、総会に係る諸経費

# 平成20年度の事業計画書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

特定非営利活動法人日本家庭医療学会

## 1 事業の方針

- ・以下の事業を確実に実施することを目標とする。
- ・3学会合同に向けての協議を進める。
- ・会報を年4回、会誌を年3回発行する。
- ・「家庭医療後期研修プログラム指導医養成のための

ワークショップ」を年3回開催する。

- ・患者教育用パンフレット作成及びホームページへの公開のためのワーキンググループがパンフレットをある程度、完成させる。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施予定日時 (B)当該事業の実施予定場所 (C)従事者の予定人数	(D)受益対象者の範囲 (E)予定人数	収支予算書の 事業費の 金額 (単位:千円)
学術集会・総会	家庭医療の研修・教育や研究のための学術集会を開催する。	(A) 5月31- 6月1日に行う。 (B) 東京大学 (C) 50名	(D) 家庭医療に関心がある医療関係者および個人 (E) 約600名	11,000
教育集会(セミナー、ワークショップ)等の開催	医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナーを開催する。	(A) 8月9日～11日に行う。 (B) シャトーテル一本杉 (C) 20名	(D) 家庭医療に関心がある医学生及び医療関係者 (E) 160名	4,800
教育集会(セミナー、ワークショップ)等の開催	家庭医の生涯教育のためのワークショップを開催する。	(A) 11月8-9日に行う。 (B) 天満研修センター (C) 10名	(D) 家庭医療に関心がある医療従事者 (E)200名	3,740
教育集会(セミナー、ワークショップ)等の開催	若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナーを開催する。	(A) 平成21年2月(土日の二日間)に行う。 (B) 未定 (C) 8名	(D) 家庭医療に関心がある若手医師及び医療関係者 (E)100名	2,350
教育集会(セミナー、ワークショップ)等の開催	家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのワークショップを開催する。	(A) 年3回(6月に1回、10-11月に1回、1-2月に1回)行う。 (B) 未定(政令指定都市を中心に) (C)30名	(D) 認定プログラムの指導医、プログラム責任者、また、それらになろうとする者 (E) 150名	※確認中
教育集会(セミナー、ワークショップ)等の開催	臨床研究初学者のためのワークショップを開催する。	(A) 年4回(休日に行う。) (B) 東京近辺 (C) 10名	(D) 会員 (E) 20名	※ 600
家庭医療に関する情報の交換	家庭医療に関する情報交換のためのメーリングリストを運営する。	(A) 通年行う。 (B) メーリングリスト (C) 3名	(D) 会員 (E) 約1,100名	21
家庭医療に関する情報の交換	学生・研修医を中心とする家庭医療に関する情報交換のためのメーリングリストを運営する。	(A) 通年行う。 (B) メーリングリスト (C) 10名	(D) 家庭医療に関心がある医学生・研修医及び医療関係者 (E) 約600名	31
家庭医療に関する調査研究	家庭医療後期研修プログラム認定に関する審査を行う。	(A) 通年行う。 (B) メール及び主たる事務所 (C) 20名	(D) 家庭医療に関心がある医療従事者 (E) 不特定多数	600

※未提出のため昨年どおり

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施予定日時 (B)当該事業の実施予定場所 (C)従事者の予定人数	(D)受益対象者の範囲 (E)予定人数	収支予算書の 事業費の金額 (単位:千円)
家庭医療に関する 調査研究	家庭医療後期研修プログラム責任者がそのプログラム認定等に関する内容を討議する会議を開催する。	(A) 通年行う。 (B) 未定 (C) 約70名	(D) 家庭医療後期研修プログラム責任者、および家庭医療に関心がある医療従事者 (E) 不特定多数	100
家庭医療に関する 調査研究	家庭医療にかかわる研究計画の倫理審査を行う。	(A) 随時行う。 (B) メール (C) 6名	(D) 家庭医療にかかわる研究を行おうとする医療従事者 (E) 不特定多数	117
家庭医療に関する 広報活動及び情報 提供	ホームページによる家庭医療に関する広報及び情報提供と一般市民に対する啓発活動を行う。	(A) 通年行う。 (B) 本法人のホームページ (C) 5名	(D) 家庭医療に関心がある個人及び団体	300
内外の関連団体と の連携	家庭医療、プライマリ・ケアに関連する5学会、団体の方針を調整するプライマリ・ケア教育連絡協議会への活動に参加する。	(A) 随時行う。 (B) 未定 (C) 3名	(D) プライマリ・ケア教育に関わる教育者 (E) 不特定多数	80
内外の関連団体と の連携	家庭医療、プライマリ・ケアに関連する3学会、団体の方針を調整する3学会合同会議への活動に参加する。	(A) 随時行う。 (B) 未定 (C) 3名	(D) 日本において家庭医療、プライマリ・ケアの認定に関わる者 (E) 不特定多数	2,000
内外の関連団体と の連携	家庭医療、プライマリ・ケアに関連する3学会、および日本医師会とで総合診療医認定の方針、内容を調整する会議、ワークショップなどの活動に参加する。	(A) 随時行う。 (B) 未定 (C) 2-3名	(D) 日本において総合医の認定に関わる者 (E) 不特定多数	300
会報及び機関誌等 の発行	家庭医療の教育・研究、家庭医療の専門性の確立、及び会員との連絡調整のための学会誌の編集、発行、本法人のホームページへの掲載を行う。	(A) 年3回(6月,11月,平成21年3月)に発行する。 (B) 編集委員の職場、及び主たる事務所 (C) 7名	(D) 主に家庭医療に関心がある医療関係者及び大学医学部 (E) 大学医学部80機関と不特定多数	3,180
会報及び機関誌等 の発行	家庭医療の教育・研究、家庭医療の専門性の確立、会員との連絡調整のための会報の編集、発行、本法人のホームページへの掲載を行う。	(A) 年4回(5月,8月, 11月,平成21年2月)に発行する。 (B) 広報委員の職場及び主たる事務所 (C) 5名	(D) 家庭医療に関心がある個人及び団体 (E) 不特定多数	1,700
その他、本法人の目的達成に必要な事業	家庭医療に関する若手会員によるすぐれた研究に対し、学会賞を提供する研究助成を行う。	(A) 平成20年学術集会の会期中 (B) 東京大学 (C) 3名	(D) 会員及び共同研究者 (E) 20名	87
その他、本法人の目的達成に必要な事業	日本の家庭医療の発展に寄与すると思われる家庭医療関連の研究に対して助成金を提供する課題研究助成を行う。	(A) 平成20年11月-平成21年1月まで募集し、平成21年2月に対象者を決定。 (B) 特になし (C) 3名	(D) 会員及び共同研究者 (E) 3名	610
その他、本法人の目的達成に必要な事業	患者教育用パンフレット作成及びホームページへの公開のためのワーキンググループ募集と作成の準備に関する検討を行う。	(A) 随時行う。 (B) 本法人のホームページ及びメーリングリスト (C) 200名	(D) 患者教育に関心がある個人及び団体 (E) 不特定多数	1,300

## 日本家庭医療学会 サテライトワークショップ in 広島

昨秋、大阪（天満研修センター）にて恒例の第15回家庭医の生涯教育のためのワークショップが開催されました。毎年大変好評のこのワークショップでは、参加応募希望にも関わらず定員に達したため断念された会員・非会員が数多くいらっしゃいます。学会へは年間複数回の開催のご要望、他地域での開催のご希望の声が多く寄せられています。そこで今回初めて広島にて人気講座をアンコールしていただくことになりました。同時に新しい講座も加わっております。どうぞご期待下さい。

生涯教育委員会 一瀬直日

- ◆日時 : 2008年9月21日(日) 午前9時～午後3時
- ◆場所 : 広仁会館 (広島大学霞キャンパス内。JR 広島駅よりバスで約 20 分)  
広島市南区霞 1-2-3
- ◆定員 : 160 名
- ◆参加費用 : 会員 7,500 円 会員外 9,000 円
- ◆参加申し込み : ホームページ・E-mail・ファックスにてお申し込みを受け付けます。  
詳細は、学会 HP 内「サテライトワークショップ in 広島」  
(<http://jafm.org/sws/index.html>) をご覧ください  
※ 登録完了には参加費納入を要します
- ◆お問い合わせ : 特定非営利活動法人 日本家庭医療学会事務局  
〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1 丁目 22-38 三洋ビル 4F  
あゆみコーポレーション内  
TEL.06-6449-7760 (学会専用)  
FAX. 06-6441-2055 (あゆみコーポレーション共用)  
Email : [jafm@a-youme.jp](mailto:jafm@a-youme.jp)

◆スケジュール :

	会議室 A	会議室 B
午前1 ( 9:00 - 10:30)	岸本(1)	名 郷
午前2 (10:50 - 12:20)	守 屋	岸本(2)
午 後 (13:20 - 14:50)	佐 藤	一 瀬

## ◆講師とワークショップ内容のご紹介

**岸本暢将氏**（亀田総合病院 リウマチ膠原病内科）

### WS1：プライマリケアのための関節リウマチ診療 ～これだけは診よう Hands-On セッション～

関節リウマチ（Rheumatoid Arthritis: RA）患者は全国で 60 万人以上、プライマリケアで必ず遭遇する疾患です。身体診察をみなさんで実践していただき診断とフォローのポイントを明確に解説します。

### WS2：目で見えるリウマチ膠原病 ～一発診断～

膠原病は難しい!と思っている先生は多くないですか?一発診断から詳細な病歴聴取、身体診察の重要性まで、再確認させていただきます。

**名郷直樹氏**（東京北社会保険病院 臨床研修センター）

### その場にならないと何をやるかわからない EBM 講座

題名のとおり、その場にならないと何をやるのかわからない。参加者の希望を聞きながらとっていく、希望を聞いてそれに沿ってやるかどうか、その場にならないとわかりません。そんな何をやるかわからないのでは心配で参加できない、という人、大歓迎です。そういうハブニング性の高いものに挑戦したい、そういう人はかえって期待はずれかもしれません。とわけのわからないことを言いつつ、着実に?当日までの準備を進めています。

**守屋章成氏**（医療法人 地域医療ぎふ シティ・タワー診療所）

### 素人漢方 家庭医和漢

素人の素人による素人のための漢方（和漢）診療入門です。専門家による講義では全くありません。知らないことは知りません。分からないことは分かりません。でも知っていることは少しはありますし、分かることも少しはあります。そして、ちょびっとだけ自信を持ってお伝え出来ることもあります。

漢方（和漢）の面白さは、患者さんを診た時に自分の中に湧いてくる「感じ」をそのまま診療に使えること。そして、症状が時には薄紙を剥ぐように、時には劇的に、改善されていく喜びと爽快感。…なかなか“ヒット”しないのが素人の悲しさですが（笑）。「出来ることだけ、出来ることから」の漢方（和漢）診療、一緒に始めてみませんか。

**佐藤健一氏**（関西リハビリテーション病院）

### 知ってほしい!!航空機内での急病人に対する医療体制 ～日々の診療に役立つ疾患への知識も～

飛行機に乗っていて「この機内で急変があったら…」と考えたことはありませんか? 皆さんの中には少なからずいると思います。でも、航空機内医療について学ぶ機会が非常に少ないのが事実ですよ。そんな皆さんのリクエストにお答えして「航空機内医療」について学ぶチャンスが再び出来ました!!

当日は、気圧の変化による身体への影響、緊急時の医療支援体制、搭載されている医薬品・医療用具のスライドによる紹介、遭遇しやすい病態についてのレクチャーを予定しています。

航空機での移動が多い世の中、安心して空の旅を楽しめるように知識を得てみませんか?

\*今回のレクチャーでは搭載される医薬品・医療器具の実物の展示はありません。ご了承下さい。

**一瀬直日氏**（赤穂市民病院）

### 家庭医ならどうする? 停電、水害から在宅患者を守るために

「まさかうちが水害に遭うなんて。(根拠はないが) きっと大丈夫! (と信じて)」皆さんの多くが、台風による水害・停電、地震による被害を受けることなど日常予測していないのではないのでしょうか? そのまさかが起きたとき、身の回りが不自由な在宅患者はどうなるのでしょうか?

予測できる不自由があるならば、先に対策をとることが必要です。家庭医ならではのフットワークの見せ所です。

このワークショップでは、参加者が自分の地域に起きうる災害の種類を予測し、実際に在宅患者用マニュアルを作成できるようにすることを目標とします。

ワークショップは

- (1) 台風による水害を受けた在宅患者の例を提示
- (2) どういった対策をとっておけばよかったか小グループで討論
- (3) 赤穂市民病院で行っている災害から在宅患者を守る方法を提示
- (4) 災害時の在宅患者用マニュアルの作成を実践

と進めていきます。

少しでも多くの地域で、要援護者を守る対策がとられていくことを切望しています。皆様の参加をお待ちしております。

\*参加者のうち希望者には赤穂市民病院で作成されたマニュアルを CD にてファイル配布いたします

## 平成20年度 第2回

# 家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのワークショップ

当学会が認定するプログラムも80を超え、家庭医養成の気運はますます高まりつつありますが、後期研修プログラム運営のノウハウを持つ施設はまだ限られています。このワークショップでは、そうした経験と実績を持つ指導医が、一般的な医学教育の知識や技能の提供に加えて、3年間のレジデンス運営のポイントや家庭医療ならではの教育方法を提供し、プログラムや指導医の質の向上に貢献することを目的としています。

第2回 WS も第1回に引き続き、魅力的なプログラムを提供していきますので、ふるってご参加下さい。なお、内容の詳細は開催の1ヶ月ぐらい前を目処に発表の予定です。

- ◆ 期 日 : 2008年10月25日(土)～26日(日)  
25日 13:30～17:30 / 26日 8:30～12:30
- ◆ 場 所 : 新大阪丸ビル 新館  
〒533-0033 大阪市東淀川区東中島 1-18-27  
(JR「新大阪駅」徒歩2分)
- ◆ 対象者 : 現在、本学会認定の家庭医療後期研修プログラムを運営している指導医またはプログラム責任者、または将来立ち上げを計画している指導医(学会員に限る\*)  
\*非学会員の方は当日入会手続きをしていただけます。  
※プログラム責任者については代理参加も可。但し代理の場合も会員であることが条件です。  
※家庭医療後期研修プログラムのこれまでの状況を存じない方は、学会 web サイト (<http://jafm.org>) より**学会認定後期研修プログラム (バージョン 1.0)**をダウンロードしてご持参ください。
- ◆ 定 員 : 65名(先着順で締め切り)
- ◆ 参加費 : 10,000円(どちらか1日のみ参加の場合は6,000円) ※懇親会費は別途  
懇親会費(軽食での情報交換会): 5,000円  
(費用は、当日受付にてお支払いください)
- ◆ 参加登録 : メール、ファックス、郵送のいずれかにて、件名に「**指導医養成のためのワークショップ**」、本文に「(1) 氏名、(2) 所属、(3) 連絡先(メールアドレスまたはファックス)、(4) **懇親会参加の有無**」を明記のうえ、下記学会事務局に申請をお願いします。

日本家庭医療学会事務局

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-22-38 三洋ビル 4F

あゆみコーポレーション内

TEL : 06-6449-7760 FAX : 06-6441-2055

E-mail : [jafm@ayoume.jp](mailto:jafm@ayoume.jp)

さらに詳しい内容が決定次第、学会ホームページにてお知らせいたします。

<http://jafm.org/fd/>

## 第16回 家庭医の生涯教育のためのワークショップ

今年も11月に皆様お待ちかねの家庭医の生涯教育のためのワークショップを開催いたします。場所は例年通り大阪市天満研修センターです。今年はさらにパワーアップした企画を用意しております。初日のメインの講演は、福井県立病院ERの林寛之先生にお願いしております。また2日目のワークショップは、これまでに評判の良かったものに斬新なものを加えて、これまで最高の30ものセッションを用意し、他の国内の学会、講演会にはない規模のワークショップになると考えております。講師陣も感染症の岩田健太郎先生（神戸大学）、ラップ療法の鳥谷部俊一先生（相澤病院）など超豪華な先生方にお願いしております。

案内開始は9月中旬を予定しております。豪華講師陣についての情報はもう少しお待ちください。今年は一人でも多くの方に来ていただけるように、定員を大幅に増やしまして300名にいたしました。若手の方もおじお婆会の方もこぞってご参加ください。会員の方を優先で受付を予定しております。今から日程に加えておいてください。今年も皆で大阪に集まって明日からの診療が楽しくなるような知識、技術を一緒に学びましょう。

日時：2008年11月8日(土)、9日(日)

場所：天満研修センター（大阪市）

定員：300名 会員優先

### 学会認定後期研修プログラム「後期研修プログラム研修医登録申請書」 ご提出のお願い

学会認定後期研修プログラムにて平成20年度より研修を開始した研修医の登録申請を行っていない場合は、9月末までに登録申請を行ってください。

報告

家庭医療指導医としての「教育方針」に関するレポートの書式を変更しました。

## 第4回 若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー

来年2月の東京大学は、若手家庭医にとって二日間限定の家庭医療の最高学府になります!!  
そんな、第4回冬期セミナーを下記の要領で予定しております。

過去3回の冬期セミナーは大変な盛り上がりを見せ、若手家庭医の情熱とますます高まる家庭医への期待を感じる事が出来ました。今回は、企画面での充実を更に図ります。

まず、従来のWSと並列して、学会認定後期研修プログラムの研修医を主な対象としたWSを開催します。家庭医療の学びが深まり、アイデンティティが高まる内容を計画中です。

そして、講師も例年のごとく新進気鋭の若手家庭医が行うと同時に、日本の家庭医療学の第一線の指導医を招聘し、家庭医療学のエッセンスとプリンシプルを学べる2日間をデザインしています。

具体的内容につきましては、現在鋭意検討中です。詳細が決まり次第、学会や若手家庭医のメーリングリスト、若手家庭医部会ホームページにて連絡させていただきます。乞うご期待!!  
春の学術集会の盛り上がり、冬の東大でも再現しましょう!!

家庭医療学会若手部会 冬期セミナー担当 松井 善典

日時：2009年2月14日(土)、15日(日)

会場：東京大学 東京都文京区本郷7-3-1

医学図書館 333室, 310室 医学部教育研究棟 第1, 2, 3セミナー室

内容：家庭医療学や家庭医に必須の知識・技術・態度についての講義、WS、ディスカッションなど

対象：①学会認定プログラムの後期研修医

②家庭医を志す卒業後3-10年目の若手医師

③家庭医を目指す初期研修医、11年目以降のベテラン家庭医の参加も歓迎いたします

定員：100名





## 北海道で活躍するジェネラリストの活動拠点

札幌医科大学地域医療総合医学講座 山本 和利

昨今、地域医療は崩壊の危機に瀕しています。都市部にあっても病院勤務医のなり手が少なく、救命に直結する医療の担い手を確保出来ない現実があります。医療が専門分化されている中で、臓器を選ばず全人的に患者を診ることのできる「総合医」「家庭医」の役割はますます増大しています。

### 札幌医科大学の『地域医療実習』

このような状況の中で「総合医」「家庭医」の魅力や医学生に知ってもらうために、第5学年の総合診療科臨床実習を『地域医療実習』と銘打って、2週間にわたり大学病院以外の北海道内外の一般病院（急性期病院・慢性期病院）・診療所において行っています。

教育目標は、家庭医としての幅広い医療業務を理解する、ケアマネジメントの仕方を学ぶ、患者・地域を取り巻く医療問題を学ぶ、としています。詳細は各施設の指導医にまかしていますが、実習期間中にポートフォリオを作成して実習最終日に提出し、大学の指導教官と一緒にポートフォリオとSEAによる振り返りとOSCEを行っています。

また札幌医科大学の研修プログラムを選択した初期研修医の数人に対して、1～3ヶ月間、外来診療とプレゼンテーションの基本を教えています。

学生実習、初期研修を通じて「総合医」「家庭医」に興味を持つ者がいても、北海道内にその総合医・家庭医を養成する研修プログラムが十分整備されていないのが実情でした。今まで地域医療や総合医・家庭医に関心を持ちながらも、どうしてよいかわからぬまま、結果として当初の希望とは異なる進路に進んだ人もいたかもしれません。

そこで北海道プライマリ・ケアネットワークでは、「総合診療」を担う人材を育成するために、後期研修プログラム「ニポポ」を立ち上げました。北海道内の20あまりの研修病院や診療所がこのプログラムに賛同し、協力をしてくれています。

### 北海道で活躍するジェネラリストの活動拠点「ニポポ」

まずこのプログラムの目的は、3年間で地域の診療所または小・中規模病院で、予防医学や保健活動から一般外来診療、さらにその地域で求められる救急診療や二次医療まで、幅広く活躍することができる総合医（ジェネラリスト）を養成することです。

この目的を達するため、我々は3年間の研修について以下のようなステージを想定し、研修のコーディネートを行っています。

**第1ステージ：**まず後期研修1年目では、「総合診療科/総合内科」を擁する研修中核病院で1年間研修を行い、一般内科を中心とした知識や技術とともに、ジェネラリストとしての考え方、価値観、問題解決法などを総合診療科スタッフと共有しじっくりと学びます。

**第2ステージ：**2年目には、地方の中核病院において、地域で需要の高い小児科（3ヶ月間必修）、整形外科（2ヶ月間必修）、さらに必要性の高い内科のサブスペシャリティやマイナー科のローテートを行い、多様な問題に対応できるよう臨床能力を高めます。

**第3ステージ：**プログラム最終年次の3年目は、研修の総仕上げとして、これまでの成果を実践するべく実際に地域の小規模病院または診療所へ赴任し、指導医のもと地域医療に従事します。地域の医療機関では、通常の診療はもちろん、住民健康教育や様々な地域の保健活動も行います。また学生教育や初期研修医の教育にも関わ

り、指導することで自らの学びを深めます。さらにプライマリ・ケア領域の簡単なリサーチなども行い、研修の成果として発表することも目標のひとつと考えています。

この研修期間、各研修医は広大な北海道で様々な地域の研修施設に分かれて研修することになりますが、プログラムとしての一体感を保ち研修医相互の学びを深めるため、毎月第3水曜日札幌医科大学地域医療総合医学講座で行われるカンファレンス（通称「3水カンファ」）で一同に会し、各自が経験したこと、学んだこと、悩んだことなどを持ち寄り、総合医としての学びや価値観を共有しお互いの成長の場としています。さらにインターネットTV会議システムを利用した「症例検討会」や「プライマリ・ケア

レクチャーシリーズ（生涯教育講座）」も毎週水・木曜の早朝に開催しており、離れていてもインターネットを介して様々な教育行事に参加できる環境を整えています。

我々としては、さらに「ニポポ」が単なる研修プログラムに終わることなく、北海道で活躍するジェネラリストの活動拠点、情報発信基地となるよう育てていきたいと考えています。

後期研修プログラム「ニポポ」にご興味ある方は、以下のところまでご連絡ください。

NPO 法人北海道プライマリ・ケアネットワーク事務局  
TEL 011-782-9301  
E-mail: info@hokkaido-primarycare.jp



# 「生涯学習(CME)に役立つツール」特集



西岡医院 西岡 洋右

家庭医、プライマリケア医の日常診療において重要な、  
健康増進と予防についてのツールを紹介します。

## 1. USPSTF (U. S. Preventive Service Task Force)

<http://www.ahrq.gov/clinic/USpstfix.htm>

ご存じの方も多いと思いますが、科学的根拠に基づいた予防医療についての項目が推奨度とともに紹介されています。ポケットガイドをダウンロードすることもでき、日常診療に役立つと思います。

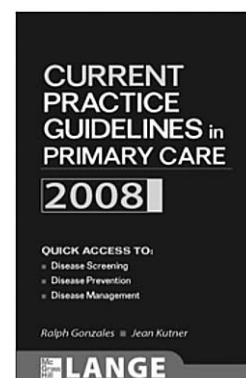
## 2. Current Practice Guidelines in Primary Care 2008

LANGE シリーズの本です。

- ①Disease Screening
- ②Disease Prevention
- ③Disease Management
- ④Appendices

の章に分かれており、①、②では様々なガイドラインによる推奨を併記（①には USPSTF の内容も含まれています）、③では 1-2 ページでおさまるアルゴリズムが載せられています。毎年更新。200 ページ程度でポケットサイズですので、白衣のポケットに入れておいて、ちょっと調べるのに役立ちます。ちなみに価格も安めです。

Amazon.co.jp で “なか見！検索” ができますので、一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。



# 事務局からのお知らせ



## メーリングリストの加入について

メーリングリストに加入してコミュニケーションの輪を広げよう！

現在、約1,000名の会員が参加しています。希望者は以下の要領で加入してください。

### ◎参加資格

日本家庭医療学会会員に限ります。

### ◎目的

メーリングリストは、加入者でディスカッショングループを作り、あるテーマについて議論したり、最新情報を提供したりするためのものです。家庭医療学会の発展のために利用していただけたら幸いです。

### ◎禁止事項

メールにファイルを添付しないでください（ウイルス対策）。個人情報をこのリストの中に流さないでください（自己紹介は可）。ごくプライベートなやりとりを載せないでください。

### ◎加入方法

学会のホームページの「各種届出」のページから申し込むか、事務局宛に次の事項を記入の上、E-mailで申し込んでください。

○会員番号（学会からの郵便物の宛名ラベルに記載されています）

○氏名

○勤務先・学校名

○メールアドレス

会員であることを確認した上で登録いたします。

事務局メールアドレス：E-mail：jafm@a-youme.jp

## 入会手続について

当学会に関心のある方をお誘いください。学生会員も大歓迎です。入会手続については、学会のホームページの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

## 会費納入のお願い

会員の皆様の中で、会費の納入をお忘れになっている方はいらっしゃいませんか。ご確認の上、未納の方は早急に納入をお願いいたします。2年間滞納されますと、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。ご不明な点は事務局へお問い合わせください。

## 異動届けをしてください

就職、転勤、転居などで異動を生じた場合はなるべく早く異動届をしてください。異動届は学会のホームページの「各種届出」のページからできます。または事務局宛にE-mail、FAX、郵便などでお知らせください。

## 編集後記

今回は学術集会の報告が中心となりました。予算報告などボリュームが多くなりましたが、サテライトワークショップin広島や指導医養成のためのワークショップ、若手家庭医のための冬期セミナーなど最新の情報が載っていますのでご一読ください。

発行所：

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会事務局  
広報委員：

松下 明（会報担当理事）、朝倉健太郎

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F  
あゆみコーポレーション内

TEL 06-6449-7760 / FAX 06-6441-2055

E-mail：jafm@a-youme.jp

ホームページ：http://jafm.org/